

年間指導計画表

教科・科目	国語・現代文B	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科・第3学年共通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。
使用教科書・副教材等	○教科書 「高等学校現代文B[改訂版]」(三省堂) ○副教材 「大学入試 頻出漢字2500」(文英堂) 「評論・小説を読むための新現代文単語 改訂版」(いっぴな書店)※継続使用 「3プラス+応用現代文」(尚文出版) 「国公立入試対策 上級現代文I」(桐原書店)※普通科文系のみ 「共通テスト対策【実力養成】重要問題演習現代文(マーク)」(ラーズ) 「2023年度版 共通テスト赤本シリーズ 共通テスト過去問題研究 国語」(教学社) 「2023年度版 共通テスト 直前対策問題集Vol.5 国語」(河合出版)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重して其の向上を図ろうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出	25%
b. 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞きとったりして、自分の考えを深め、発展させている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	50%
c. 書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	
d. 読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	25%
e. 知識・理解	言語文化及び言語の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	e
前期	4	6	『であることとすること』 (丸山真男)	・対比的な問題把握の方法と論じ方を学ぶことで、筆者の問題意識や主張を捉え、改めて読み手の立場から問題を考察する姿勢を養う。					
	5	10	『舞姫』(森鷗外)	・文語体の表現を味わい、書かれた内容を正確に読み取ることで、時代や人間のあり方について理解を深める。	○	○	○	○	○
	6	4	演習	・文章を正確に読み取ることで、物事に対する関心と問題意識を深める。					
	1	1	第1回考査						
	7	6	『身体(の)疎外』 (黒崎政男)	・文章を正確に読み取ることで、政治・経済・社会・文化の諸問題を、歴史的な視点から見ていくことの重要性を学ぶ。					
	6	6	演習	・文章を正確に読み取ることで、物事に対する関心と問題意識を深める。					
後期	9	4	演習	・文章を正確に読み取ることで、物事に対する関心と問題意識を深める。	○	○	○	○	○
	10	1	第2回考査						
	11	14	演習	・文章を正確に読み取ることで、物事に対する関心と問題意識を深める。					
	12	1	第3回考査						
	1	1	1	・(評論)文章を正確に読み取ることで、その論理性を評価することで問題意識を深める。	○	○	○	○	○
	2	20	演習	・(小説)文章を正確に読み取ることで、書き手の意図や、人物、情景、心情を理解しその表現を味わう。					
3	3	3	・文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについての問題意識を高め、目的や課題に応じて分析、整理をし、自分の考えを効果的に表現する。						

年間指導計画表

教科・科目	国語・古典B	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通 第3学年(文型)

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	古典としての古文と漢文をよむ能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広く、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	○教科書 「精選古典B古文編」(東京書籍) ※2年次に引き続き使用する。 「精選古典B漢文編」(東京書籍) ※2年次に引き続き使用する。 ○副教材 「さくらさく古文単語」(浜島書店) ※継続使用 「読解を大切に体系古典文法八訂版」(数研出版) ※継続使用 「漢文必携 四訂版」(桐原書店) ※継続使用 「グラン古典(古文・漢文)」(尚文出版) 「共通テスト対策【実力養成】対策国語重要問題演習古典(マーク)」(ラーズ) 「超入試対策実践記述力強化演習古文」(尚文出版) ※普通科文系のみ 「超入試対策実践記述力強化演習漢文」(尚文出版) ※普通科文系のみ 「オリジナルセンター試験対策 知識問題完全攻略 改訂版」(桐原書店) 「2023年度版 共通テスト赤本シリーズ 共通テスト過去問題研究国語」(教学社) 「2023年度版 共通テスト 直前対策問題集Vol.5 国語」(河合出版)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	古典を読む力を高め、作品の価値について自ら考察するとともに、我が国の文化の特質や中国の文化との関係について理解を深めようとする。古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	ノート、授業態度、提出物	25%
b. 読む能力	古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して的確に捉え、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにしようとする。古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	提出物、定期考査、小テスト	50%
c. 知識・理解	古典の理解に役立てるため、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けている。伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。	提出物、定期考査、小テスト	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
前期 (第1回)	4	5	『去来抄』 「行く春を」 「岩鼻や」	・俳論を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・俳諧に対する興味・知識を深める。	○	○	○
	5	6	『源氏物語玉の小櫛』 「もののあはれの論」	・近代の評論を読み、論旨を的確に捉える。 ・評論に表れている古人のものの見方や感じ方、考え方を理解する。	○	○	○
	6	6	『蜻蛉日記』 「なげきつつひとり寝る夜」	・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・助動詞の知識を確認し、解釈にいかす。	○	○	○
	6	7	『孟子』 「無恒産無恒心」 「君子有三楽」	・中国の主要な思想である儒家の主張の概要を理解する。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・反語・限定・疑問・仮定・二重否定などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をする。 ・古代中国の思想から現代に通ずるものの見方・考え方を知る。	○	○	○
	3	3	『老子』 「無為之治」	・中国の主要な思想である道家の主張の概要を理解する。 ・儒家の思想との違いを理解する。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・比較・選択・疑問などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をする。 ・古代中国の思想から現代に通ずるものの見方・考え方を知る。	○	○	○

		4	『韓非子』 「侵官之害」	<ul style="list-style-type: none"> 中国の主要な思想である法家の主張の概要を理解する。 本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 比較・選択・反語・疑問・仮定などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をする。 古代中国の思想から現代に通ずるものの見方・考え方を知る。 	○	○	○	
	6		第1回考査			○	○	
前期 (第2回)	7	6	『和泉式部日記』 「夢よりもはかなき～」	<ul style="list-style-type: none"> 日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 物語的な日記の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 和歌の贈答について理解し、恋愛感情の高まるさまを読み取る。 	○	○	○	
		6	『源氏物語』 「須磨の秋」	<ul style="list-style-type: none"> 長編物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 和歌を含む物語を読んで、物語における和歌の役割を考える。 敬語や助詞・助動詞の知識を確認し、解釈にいかす。 	○	○	○	
		8	7	『無名草子』 「文」	<ul style="list-style-type: none"> 近代の評論を読み、論旨を的確に捉える。 評論に表れている古人のものの見方や感じ方、考え方を理解する。 	○	○	○
		9	6	『唐宋八大家文読本』 「捕蛇者説」(柳宗元)	<ul style="list-style-type: none"> 中国の代表的な文章を読んで、作者の人生観・政治論・名人論を知る。 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 文章の表現上の特色を理解する。 本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 比較・反語・仮定・疑問・限定などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をする。 作品の内容・文章表現を理解し、自己の思考と表現力を高める。 	○	○	○
	10		第2回考査			○	○	
後期 (第3回)	10	28	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 古典の知識にもとづき、文章を読んで、その内容を構成や展開に即して的確に捉える。 文章の表現上の特色を理解する。 古典文法、句形などの知識を用い、設問の意図を理解したうえで、的確に解答を作成する技術を身に付ける。 作品の内容・文章表現を理解し、自己の思考と表現力を高める。 		○	○	
	11		第3回考査			○	○	
	12		第3回考査			○	○	
後期 (第4回)	12	40	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 古典の知識にもとづき、文章を読んで、その内容を構成や展開に即して的確に捉える。 文章の表現上の特色を理解する。 古典文法、句形などの知識を用い、設問の意図を理解したうえで、的確に解答を作成する技術を身に付ける。 作品の内容・文章表現を理解し、自己の思考と表現力を高める。 		○	○	
	1					○	○	
	2					○	○	
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	国語・古典B	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通 第3学年(理型)

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	古典としての古文と漢文をよむ能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	○教科書 「精選古典B古文編」(東京書籍) ※2年次に引き続き使用する。 「精選古典B漢文編」(東京書籍) ※2年次に引き続き使用する。 ○副教材 「さくらさく古文単語」(浜島書店) ※継続使用 「読解を大切に体系古典文法八訂版」(数研出版) ※継続使用 「漢文必携 四訂版」(桐原書店) ※継続使用 「3プラス+応用古典(古文・漢文)」(尚文出版) 「共通テスト対策【実力養成】対策国語重要問題演習古典(マーク)」(ランズ) 「オリジナルセンター試験対策国語基本問題集古典編三訂版」(桐原書店) 「2023年度版 共通テスト赤本シリーズ 共通テスト過去問題研究国語」(教学社) 「2023年度版 共通テスト 直前対策問題集Vol.5 国語」(河合出版)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	古典を読む力を高め、作品の価値について自ら考察するとともに、我が国の文化の特質や中国の文化との関係について理解を深めようとする。古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	ノート、授業態度、提出物	25%
b. 読む能力	古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して的確に捉え、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにしようとする。古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	提出物、定期考査、小テスト	50%
c. 知識・理解	古典の理解に役立てるため、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けている。伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。	提出物、定期考査、小テスト	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
前期 (第1回)	4	6	『去来抄』 「行く春を」 「岩鼻や」	・俳論を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・俳諧に対する興味・知識を深める。	○	○	○
	5	9	『蜻蛉日記』 「なげきつつひとり寝る夜」	・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・助動詞の知識を確認し、解釈にいかす。	○	○	○
	6	3	『孟子』 「無恒産無恒心」	・中国の主要な思想である儒家の主張の概要を理解する。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・反語・限定・疑問・仮定・二重否定などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をする。 ・古代中国の思想から現代に通ずるものの見方・考え方を知る。	○	○	○
	2	『老子』 「無為之治」	・中国の主要な思想である道家の主張の概要を理解する。 ・儒家の思想との違いを理解する。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・比較・選択・疑問などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をする。 ・古代中国の思想から現代に通ずるものの見方・考え方を知る。	○	○	○	
	6		第1回考査		○	○	

前期 (第2回)	7	8	『和泉式部日記』『夢よりもはかなき〜』	<ul style="list-style-type: none"> ・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・物語的な日記の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・和歌の贈答について理解し、恋愛感情の高まるさまを読み取る。 	○	○	○
	8	4	『唐宋八大家文読本』『捕蛇者説』(柳宗元)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の代表的な文章を読んで、作者の人生観・政治論・名人論を知る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・文章の表現上の特色を理解する。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・比較・反語・仮定・疑問・限定などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をする。 ・作品の内容・文章表現を理解し、自己の思考と表現力を高める。 	○	○	○
	9	4	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の知識にもとづき、文章を読んで、その内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・文章の表現上の特色を理解する。 ・古典文法、句形などの知識を用い、設問の意図を理解したうえで、的確に解答を作成する技術を身に付ける。 ・作品の内容・文章表現を理解し、自己の思考と表現力を高める。 	○	○	○
	10		第2回考査			○	○
後期 (第3回)	10	14	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の知識にもとづき、文章を読んで、その内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・文章の表現上の特色を理解する。 ・古典文法、句形などの知識を用い、設問の意図を理解したうえで、的確に解答を作成する技術を身に付ける。 ・作品の内容・文章表現を理解し、自己の思考と表現力を高める。 	○	○	○
	11		第3回考査			○	○
後期 (第4回)	12	20	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の知識にもとづき、文章を読んで、その内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・文章の表現上の特色を理解する。 ・古典文法、句形などの知識を用い、設問の意図を理解したうえで、的確に解答を作成する技術を身に付ける。 ・作品の内容・文章表現を理解し、自己の思考と表現力を高める。 	○	○	○
	1					○	○
2					○	○	○
【その他】							

年間指導計画表

教科・科目	国語・古典B	単位数	3
		学科・学年・学級	第3学年(創造表現コース)

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	古典としての古文と漢文をよむ能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	○教科書 「精選古典B古文編」(東京書籍) ※2年次に引き続き使用する。 「精選古典B漢文編」(東京書籍) ※2年次に引き続き使用する。 ○副教材 「さくらさく古文単語」(浜島書店) ※継続使用 「読解を大切に体系古典文法八訂版」(数研出版) ※継続使用 「漢文必携 四訂版」(桐原書店) ※継続使用 「グラン古典(古文・漢文)」(尚文出版) 「共通テスト対策【実力養成】対策国語重要問題演習古典(マーク)」(ランズ) 「オリジナルセンター試験対策国語基本問題集古典編三訂版」(桐原書店) 「2023年度版 共通テスト赤本シリーズ 共通テスト過去問題研究国語」(教学社) 「2023年度版 共通テスト 直前対策問題集Vol.5 国語」(河合出版)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	古典を読む力を高め、作品の価値について自ら考察するとともに、我が国の文化の特質や中国の文化との関係について理解を深めようとする。古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	ノート、授業態度、提出物	25%
b. 読む能力	古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して的確に捉え、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにしようとする。古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	提出物、定期考査、小テスト	50%
c. 知識・理解	古典の理解に役立てるため、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けている。伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。	提出物、定期考査、小テスト	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
前期 (第1回)	4	7	『去来抄』 「行く春を」 「岩鼻や」	・俳論を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・俳諧に対する興味・知識を深める。	○	○	○
	5	10	『蜻蛉日記』 「なげきつつひとり寝る夜」	・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・助動詞の知識を確認し、解釈にいかす。	○	○	○
	6	7	『孟子』 「無恒産無恒心」	・中国の主要な思想である儒家の主張の概要を理解する。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・反語・限定・疑問・仮定・二重否定などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をする。 ・古代中国の思想から現代に通ずるものの見方・考え方を知る。	○	○	○
	6	6	『老子』 「無為之治」	・中国の主要な思想である道家の主張の概要を理解する。 ・儒家の思想との違いを理解する。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・比較・選択・疑問などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をする。 ・古代中国の思想から現代に通ずるものの見方・考え方を知る。	○	○	○
	6		第1回考査		○	○	

前期 (第2回)	7	10	『和泉式部日記』 「夢よりもはかなき～」	<ul style="list-style-type: none"> ・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・物語的な日記の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・和歌の贈答について理解し、恋愛感情の高まるさまを読み取る。 	○	○	○
	8	7	『唐宋八大家文読本』 「捕蛇者説」(柳宗元)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の代表的な文章を読んで、作者の人生観・政治論・名人論を知る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・文章の表現上の特色を理解する。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・比較・反語・仮定・疑問・限定などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をする。 ・作品の内容・文章表現を理解し、自己の思考と表現力を高める。 	○	○	○
	9	6	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の知識にもとづき、文章を読んで、その内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・文章の表現上の特色を理解する。 ・古典文法、句形などの知識を用い、設問の意図を理解したうえで、的確に解答を作成する技術を身に付ける。 ・作品の内容・文章表現を理解し、自己の思考と表現力を高める。 	○	○	○
	10		第2回考査			○	○
後期 (第3回)	10 11	28	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の知識にもとづき、文章を読んで、その内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・文章の表現上の特色を理解する。 ・古典文法、句形などの知識を用い、設問の意図を理解したうえで、的確に解答を作成する技術を身に付ける。 ・作品の内容・文章表現を理解し、自己の思考と表現力を高める。 	○	○	○
	12		第3回考査			○	○
後期 (第4回)	12 1 2	40	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の知識にもとづき、文章を読んで、その内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・文章の表現上の特色を理解する。 ・古典文法、句形などの知識を用い、設問の意図を理解したうえで、的確に解答を作成する技術を身に付ける。 ・作品の内容・文章表現を理解し、自己の思考と表現力を高める。 	○	○	○
【その他】							

年間指導計画表

教科・科目	地歴科・世界史研究	単位数	4単位
		学科・学年・学級	普通科・3年・文型クラス

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	①教科書：東京書籍『世界史B』 ②問題集：啓隆社『共通テスト 実力トレーニング 世界史』 ③資料集：東京法令出版『歴史風景館 世界史のミュージアム』

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出	30%
b. 思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	20%
c. 技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・課題提出 ・ノート提出	10%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査	40%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	40	【一体化する世界】 ● 海域世界の発展 ● 中華帝国とアジア ● 大交易時代 ● 近世のヨーロッパ	○ 中華帝国を再現した明朝の動向とともに、清朝の形成した広大な領域支配と社会や文化を理解し、東アジアの状況を把握する。 ○ ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動きを理解する。 ○ ルネサンスのもたらした変革の内容と意義を理解する。 ○ 宗教改革の理念とその拡大、カトリックの対応を理解する。 ○ 近代国家の原型となった主権国家体制の特色と、体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。 ○ ヨーロッパ諸国の植民地争奪戦の動向を理解する。	○	○		○
	5				○	○	○	○
	6				○	○	○	○
			<第一回考査>			○		○

年間指導計画表

教科・科目	地歴科・日本史研究	単位数	4単位
		学科・学年・学級	普通科普通・3年・文型クラス

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の歴史の展開のうち、特に内容が高度化する中世後期(室町時代)以降をとりあげ、世界史的視野に立って総合的に考察し、日本の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
使用教科書・副教材等	①教科書: 山川出版社『詳説日本史B』 ②資料集: 浜島書店『新詳日本史』 ③史料集: 第一学習社『詳録新日本史史料集成』

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出	30%
b. 思考・判断・表現	日本の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や日本の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	20%
c. 技能	日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・課題提出 ・ノート提出	10%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査	40%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	10	○室町時代の研究	武家政権の支配の進展や庶民の台頭、東アジア世界との交流に着目し、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽、地方での文化の普及の様相を理解する。下剋上の風潮を背景に戦国大名が各地に登場し、領国の経済発展と軍事力強化をはかったことを理解する。	○	○	○	○
	5	15	○織豊期の研究	ヨーロッパ人の来航と外来文化の受容がそれ以降の日本の歴史に果たした役割や意義を考察する。織田信長・豊臣秀吉の統一過程をとらえるとともに、検地や刀狩などを中心に全国的な支配体制を確立する一方で、朝鮮侵略に至る秀吉の対外政策についても明らかにする。	○	○		○
	6	15	○江戸時代前期の研究 <第1回考査>	徳川家康から家光に至る治世に確立した幕藩体制と対外政策を構造的にとらえるとともに、大名などの統制のあり方や鎖国制の実態について考える。文治政治への転換に至った背景をとらえるとともに、幕政の展開をその問題点とともに理解する。農業や諸産業の発達と交通網の整備によって、全国的な商品流通経済が確立したことをとらえる。経済の発達が、農民の階層分化を促進し、それが幕藩体制動揺の一因となったことを理解する。元禄文化の特色とその担い手について、当時の社会・経済の発展と関連させて理解する。	○	○		○
						○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	16	○江戸時代後期の研究	幕府・諸藩の改革が封建社会の危機を深めたことを理解する。欧米列強のアジア進出とその対応の変化が幕藩体制や鎖国体制に及ぼした影響について考察する。幕政改革の失敗に対し改革に成功した西南雄藩が幕末政局の主導権を握っていくことを展望する。	○	○		○
	8							
	9	16	○幕末～明治時代の研究	日本開国の世界史的背景に留意しながら、開国の衝撃を契機として幕末の政治的激動が進行した過程を理解する。討幕派の形成から幕府の滅亡に至る政治過程と、明治新政府による中央集権体制の確立過程について理解する。藩閥専制政府のもとで実行された一連の近代化政策の意義を、その問題点とあわせて考察する。立憲政治をめぐる自由民権運動と藩閥政府との対抗関係の歴史を考察し、成立した大日本帝国憲法下の政治体制の特質を理解する。	○	○		○
	10		<第2回考査>				○	○
後期	11	14	○大正時代の研究	第一次世界大戦の原因と経過、その世界史的意義をとらえ、大戦が日本の社会・経済に及ぼした影響について考察する。大正期の政党政治の成立過程を理解するとともに、政党内閣の内外の課題への対応について理解する。都市化と中産階級の成長を背景に成立した市民文化の独自性について、具体的事例に即して理解を深める。	○	○		○
	12	14	○昭和初期の研究	恐慌による日本経済への打撃のなか、しだいに軍部や右翼が台頭したことを理解する。満州事変が日本の国際的孤立を招いたと同時に、政党政治が終焉して軍国主義への道に進む契機となったことを理解する。軍国主義化が進展する中で日中戦争が勃発し、戦争の長期化が軍国主義のもとで総動員体制を進行させたことと枢軸体制の形成に向かわせたことについて理解を深める。太平洋戦争の開戦に至る経緯を国際情勢とあわせて理解し、戦争の現実について考察する。	○	○		○
			<第3回考査>				○	○
後期	1	40	○戦後史の研究	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解するとともに、戦後政治の集大成となる日本国憲法制定の意義を理解する。55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。また、高度経済成長を遂げる過程で日本社会が大きく変貌したことや、アメリカのアジア政策に協力することによって日本が国際的地位を高めたことを理解する。	○	○	○	○
	2							
	3							

年間指導計画表

教科・科目	地歴科・日本史B	単位数	4単位
		学科・学年・学級	普通科普通・3年・理型クラス 普通科創造表現コース・3年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	①教科書：山川出版社『詳説日本史B』 ②資料集：浜島書店『新詳日本史』 ③史料集：第一学習社『詳録新日本史史料集成』 ④学習ノート：山川出版社『詳説日本史ノート』

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出	30%
b. 思考・判断・表現	日本の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や日本の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	20%
c. 技能	日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・課題提出 ・ノート提出	10%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査	40%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	15	○日本文化のあけぼの	遺跡や遺物など様々な歴史的資料の特性に着目し、資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ、歴史への関心を高めるとともに、文化財保護の重要性に気付く。	○	○	○	○
	5	25	○律令国家の形成	我が国において国家が形成され律令体制が確立する過程、隋・唐など東アジア世界との関係、仏教文化に着目して、古代国家の形成と展開、文化の特色とその成立の背景について考察する。	○	○		○
	6		<第1回考査>			○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	12	○貴族政治と国風文化	東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向に着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景及び中世社会の萌芽について考察する。	○	○		○
	8 9	10	○中世社会の成立	武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立の背景について考察する。	○	○		○
	10	10	○武家社会の成長 〈第2回考査〉	中世の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について考察する。	○	○		○
後期	11	10	○幕藩体制の確立	ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権と幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察する。	○	○		○
		10	○幕藩体制の展開	文治政治への転換に至った背景をとらえるとともに、幕政の展開をその問題点とともに理解する。また、幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察する。	○	○		○
	12	8	○幕藩体制の動揺 〈第3回考査〉	封建経済・領主財政の再建をはかった幕府・諸藩の改革が、かえって農村を疲弊させ、農民や都市下層民の抵抗をまねき、封建社会の危機を深めたことを理解する。欧米列強のアジア進出とその対応の変化が幕藩体制や鎖国体制に及ぼした影響について考察する。幕政改革の失敗に対し、同時期の改革に成功した西南雄藩が幕末政局の主導権を握っていくことを展望する。	○	○		○
後期	1	15	○近代への胎動	欧米列強のアジア進出とその対応の変化が幕藩体制や鎖国制に及ぼした影響について考察する。	○	○		○
	2	25	○近代・現代の日本	最後に2年次に学習した日本の近代・現代について振り返る	○	○	○	○
	3							

年間指導計画表

教科・科目	地歴科・地理研究	単位数	4単位
		学科・学年・学級	普通科・3年・文系

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	①教科書：帝国書院『新詳地理B』 帝国書院『新詳高等地図』 ②資料集：東京法令出版『新編地理資料 2021』 二宮書店『データブック オブ ザ ワールド 2022』

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出	20%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	10%
c. 技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・課題提出 ・ノート提出	10%
d. 知識・理解	現代世界の地理的な事象から課題を見出し、諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
前期	4	40	《現代世界の地誌的考察》 【現代世界の地域区分】 ●地域区分とは何か 【現代世界の諸地域】 ●東アジア	○現代世界の系統地理的な特徴を、地域的な枠組みから検討するために、自然や政治、経済、文化などの指標によって様々な地域区分をすることができるようにする。 ○中国に関する学習課題を見出し、中国の急激な成長の理由と影響について地誌的に考察し、その過程や結果を整理できる。 ○中国の地域的特色や地球的課題、ほかの事象と有機的に関連付けて地誌的に考察する方法を理解し、その知識を身につける。	○		○		
	5		●東南アジア			○		○	
	6		●南アジア ●西アジア・中央アジア		○東南アジアの諸国がASEANとしてまとまりを持った地域であることを、多面的・多角的に考察し、その過程や結果をまとめたりすることが出来る。		○		○
			<第1回考査>	○インドに関する提示された諸資料から有用な情報を選択し読み取る。 ○北アフリカ・西アジア・中央アジアに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し捉えようとする。	○	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期 / 後期	7	32 28	●北アフリカとサハラ以南のアフリカ	○北・中・南アフリカに関する学習課題を見出し、地球的課題について地誌的に考察し、課題やその解決法について自分の考えを論述していく。 ○ヨーロッパに関する学習課題を見出し、地域的特色や人口問題などについて地誌的に考察し、その結果について整理する。 ○CISの中心的な国であるロシアやCISに加盟していない国々(バルト3国やジョージア)に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択したり、読み取ったりする。 ○北アメリカに関する学習課題を見出し、地域にみられる特色や生活水準の格差などについて地誌的に考察し、その結果について整理する。 ○ラテンアメリカに関する学習課題を見出し、地球的課題について地誌的に考察し、課題やその解決法について自分の考えを論述していく。 ○オセアニアに関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択したり、読み取ったりする。 ○現代世界における日本の国土の特色や我が国が抱える地理的な諸課題を基に、現代世界における日本の国土に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求する。	○	○	○	○
	8		●ヨーロッパ		○	○	○	○
	9		●ロシア		○	○	○	○
	10		●アングロアメリカ		○	○	○	○
			<第2回考査>		○	○	○	○
	11		●ラテンアメリカ		○	○	○	○
	12		●オセアニア		○	○	○	○
			【現代世界と日本】		○	○	○	○
			●日本が抱える地理的な諸課題		○	○	○	○
			●日本の抱える課題の追求		○	○	○	○
			<第3回考査>		○	○	○	○
	後期		1		40			
2		ここまでの授業内容の復習	これまでの学習内容を復習し理解の定着を図る	○		○	○	

年間指導計画表

教科・科目	地歴科・地理B	単位数	4単位
		学科・学年・学級	普通科・3年・理系

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	①教科書: 帝国書院『新詳地理B』 帝国書院『新詳高等地図』 ②資料集: 東京法令出版『新編地理資料 2021』 二宮書店『データブック オブ ザ ワールド 2022』

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出	20%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	10%
c. 技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・課題提出 ・ノート提出	10%
d. 知識・理解	現代世界の地理的な事象から課題を見出し、諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	40	《現代世界の地誌的考察》 【現代世界の地域区分】 ●地域区分とは何か 【現代世界の諸地域】 ●東アジア	○現代世界の系統地理的な特徴を、地域的な枠組みから検討するために、自然や政治、経済、文化などの指標によって様々な地域区分をすることができるようにする。 ○中国に関する学習課題を見出し、中国の急激な成長の理由と影響について地誌的に考察し、その過程や結果を整理できる。 ○中国の地域的特色や地球的課題、ほかの事象と有機的に関連付けて地誌的に考察する方法を理解し、その知識を身につける。 ○東南アジアの諸国がASEANとしてまとまりを持った地域であることを、多面的・多角的に考察し、その過程や結果をまとめたりすることが出来る。 ○インドに関する提示された諸資料から有用な情報を選択し読み取る。 ○北アフリカ・西アジア・中央アジアに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し捉えようとする。	○		○	
	5		●東南アジア			○		○
	6		●南アジア ●西アジア・中央アジア		○		○	○
			<第1回考査>			○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d	
前期 / 後期	7	32 28	●北アフリカとサハラ以南のアフリカ	○北・中・南アフリカに関する学習課題を見出し、地球的課題について地誌的に考察し、課題やその解決法について自分の考えを論述していく。	○	○	○	○	
	8		●ヨーロッパ	○ヨーロッパに関する学習課題を見出し、地域的特色や人口問題などについて地誌的に考察し、その結果について整理する。		○		○	
	9		●ロシア	○CISの中心的な国であるロシアやCISに加盟していない国々(バルト3国やジョージア)に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択したり、読み取ったりする。			○	○	
	10		●アングロアメリカ	○北アメリカに関する学習課題を見出し、地域にみられる特色や生活水準の格差などについて地誌的に考察し、その結果について整理する。			○	○	
	11		<第2回考査>				○		○
	12		●ラテンアメリカ	○ラテンアメリカに関する学習課題を見出し、地球的課題について地誌的に考察し、課題やその解決法について自分の考えを論述していく。	○	○	○	○	
			●オセアニア	○オセアニアに関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択したり、読み取ったりする。			○	○	
			【現代世界と日本】						
			●日本が抱える地理的な諸課題	○現代世界における日本の国土の特色や我が国が抱える地理的な諸課題を基に、現代世界における日本の国土に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求する。	○		○		
			●日本の抱える課題の追求			○		○	
			<第3回考査>						
後期	1	40							
	2		これまでの授業内容の復習	これまでの学習内容を復習し理解の定着を図る	○	○		○	

年間指導計画表

教科・科目	公民科・公民総合	単位数	4単位
		学科・学年・学級	普通科・第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>[倫理分野]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 <p>[政治・経済分野]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	<p>[倫理分野]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書『倫理』(東京書籍) ・資料集『テオリア最新倫理資料集』(第一学習社) ・用語集『倫理用語集』(山川出版) <p>[政治・経済分野]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書『政治・経済』(東京書籍) ・資料集『最新政治・経済資料集』(第一学習社)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	<p>[倫理]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。 ・倫理的な諸課題についての探究的な態度を身につけ、人間としての在り方生き方への自覚を深めようとしている。 <p>[政治・経済]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題や課題にかかわる事柄に関心をもち、意欲的に探究しようとしているか。 ・社会的事象を総合的に理解し考察しようとする態度を身につけているか。 ・国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進をはかるため参加、協力する態度を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 	30%
b. 思考・判断・表現	<p>[倫理]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者と共に生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理課題などについて多面的・多角的に探究しようとしている。 ・良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。 ・課題についての考察や判断の過程や結果を、様々な方法で論理的に表現している。 <p>[政治・経済]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる諸課題を考察し、それらの本質や特質、さらには望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的、多角的に考察しているか。 ・社会の変化やさまざまな立場、考え方があることを理解した上で公正に判断しているか。 ・課題についての考察や判断の結果をさまざまな方法を使って適切に表現しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査 	10%
c. 技能	<p>[倫理]・自己形成や人間としての在り方生き方、現代の倫理的課題に関して様々な資料を収集、整理し、情報を主体的に選択している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸資料を自己形成のために主体的に活用し、追究した内容などを様々な方法で適切に表現している。 <p>[政治・経済]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題や重要な課題にかかわる事柄に関する諸資料をさまざまなメディアから収集し、有用な情報を適切に選択・活用することができるか。 ・得られた資料や情報を効果的に活用し、社会の諸問題を探求する学び方を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出 ・ノート提出 	5%

d. 知識・理解	<p>〔倫理〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年期における自己形成や人間としての在り方生き方、現代の倫理的課題などに関した基本的な事柄を他者と共に生きる自己の確立の課題として理解している。 ・さらに、自己の人格形成や課題解決のために生かす知識を身に付けている。 <p>〔政治・経済〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治、経済、社会、国際関係にかかわる基本的な課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査 	55%
----------	--	--	-----

3 学習計画 ●倫理分野 ○政治・経済分野

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
前期	4	40	●青年期の課題と自己形成 ●人間としての自覚 ○民主政治の基本原則	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の人生の中での意味や発達課題についての学習をとおして自らの生き方について考えさせる。 ・ギリシャ思想の学習をとおして、「よく生きる」意味について考えさせる。 ・ 基本的人権の意義、法の支配、民主主義の発達と人権の発達、世界の政治体制等を学ぶことをとおして民主主義の課題について理解えさせる。 	○	○		○	
	5		●人間としての自覚 ○日本国憲法の基本原則	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三大宗教(キリスト教、仏教、イスラーム)の学習をとおして、現代における宗教の意義を考えさせる。 ・ 日本国憲法の成立、日本国憲法における平和主義、基本的人権の保障の内容についての学習をとおして、今日における日本国憲法の意義を理解させる。 	○	○		○	
	6	10	○日本の政治機構 ●人間としての自覚	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国憲法の成立、日本国憲法における平和主義、基本的人権の保障の内容についての学習をとおして、今日における日本国憲法の意義を理解させる。 ・ 日本の国会、内閣、裁判所、地方自治のしくみを学習することをとおして、民主主義を支える制度を理解させる。 ・ 諸子百家の思想の学習をとおして、日本の文化や思想との関連を考えさせる。 	○	○		○	
	7		○現代政治の特質と課題 ●国際社会における日本人の自覚 ○現代の国際政治	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋と東洋の源流にある思想を比較して共通点と相違点を調べまとめる。 ・ 戦後政治の流れと日本の特徴、政党と選挙、行政機能の優位、世論の役割について理解させる。 ・ 日本の風土と日本人の精神的特性の関連を考えさせる。 ・ 仏教の伝来と受容についての学習をとおして現代への影響を理解させる。 ・ 国際政治と国際法の意義、国際連合の成立と活動、東西冷戦終結後の国際政治、核軍縮や管理に係る学習をとおして、国際政治と日本の関係について理解させる。 	○	○	○	○	
					<p><第1回考査></p>		○		○
						○	○		○
						○	○		○
					○	○		○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期/後期	8	50	○国際社会に生きる日本人の自覚 ●現代の資本主義経済	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌倉時代の法然、親鸞、栄西、道元、日蓮に係る学習をとおして、鎌倉仏教の各宗派の教義や特色を理解させる。 ・ 儒学、国学、庶民の思想などの学習をとおして、伝統文化をなす儒教道徳の特徴を理解させる。 ・ 資本主義経済についての学習をとおして現代の経済活動の意義について考えさせる。 	○			○
	9		○国際社会に生きる日本人の自覚	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近代以降の思想に係る学習をとおして、今日の日本人の見方・考え方の関連を考えさせる。 	○	○		○
	10	●現代経済のしくみ ●福祉社会と日本経済の課題 ○現代を生きる人間の倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近代以降の思想に係る学習をとおして、今日の日本人の見方・考え方が誕生した背景とそれに関連する思想について理解させる。 ・ 経済主体の役割、市場のしくみ、国民経済、経済成長、金融のしくみ、財政の役割に係る学習をとおして、経済活動の調整について理解させる。 ・ 西洋近代思想の特色である、「人間中心主義」や「合理主義」の見方・考え方が誕生した背景とそれに関連する思想について理解させる。 	○	○		○	
	11	●日本経済の発展と産業構造の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本経済の歴史、中小企業問題、日本の農業、国民の生活、環境・公害問題の学習をとおして日本経済の課題について理解させる。 ・ 近代の「合理主義」の限界が提起された背景とそれを克服する思想について理解させる。 	○	○		○	
	12	○国際社会に生きる日本人の自覚 ●福祉社会と日本経済の課題 ○現代の課題を考える ●国民経済と国際経済	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の労働問題・社会保障を取り巻く問題の学習をとおして自らとの関わりについて考えさせる。 ・ 現代の諸課題の学習をとおして自己の生き方と結びつけさせるとともに自らの考えについてまとめさせる。 ・ 国際取引、国際収支、資本主義経済の展開、南北問題についての学習をとおして、世界経済と日本経済とのかわり考えさせる。 	○	○	○	○	
						○	○	
後期	1	10	総復習	〔共通〕 問題演習を通して、これまでの学習内容の理解の定着を図る	○	○		○

【その他】

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学Ⅲ	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科・普通 第3学年理型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法および積分法についての理解を深め, 知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを積極的に活用する態度を育てる。
使用教科書・副教材等	数研出版 改訂版数学Ⅲ 数研出版 改訂版サクシード数学Ⅲ 数研出版 チャート式 改訂版 基礎からの数学Ⅲ 河合出版 チョイス新標準問題集数学Ⅲ

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法および積分法に関心をもつとともに, それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	観察、課題、小テスト等	10%
b. 数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法および積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	20%
c. 数学的な技能	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法および積分法において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	10%
d. 知識・理解	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法および積分法における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	10	第7章 積分法	いろいろな関数についての積分法を理解し, 活用できるようになるとともに, 定積分と和の極限の関係を理解する。	○	○	○	○
	5	15	第8章 積分法の応用	積分法の有用性を認識するとともに, 図形の求積などに活用できるようにする。	○	○	○	○
	6	14	第1章 複素数平面	複素数を複素数平面を用いて図形的に表現することで, 複素数の諸演算が平面上の図形的な性質として表されることを理解するとともに, 複素数を用いて図形の性質を考察できるようにする	○	○	○	○
	7	1	第1回考査			○	○	○
		計40						

	7	11	第2章 式と曲線	2次曲線の基本的な性質および曲線がいろいろな式で表現できることを理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	8	5	総合演習	数学Ⅲの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な問題に対応できる実力を養成する。	○	○	○	○
	9	15						
	10	1						
		計32						
後期	10	10	総合演習	数学Ⅲの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な問題に対応できる実力を養成する。	○	○	○	○
	11	17						
	12	1	計28	第3回考査	○	○	○	
	12	6	総合演習	数学Ⅲの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な問題に対応できる実力を養成する。	○	○	○	○
	1	2						
	2	計8						

【その他】

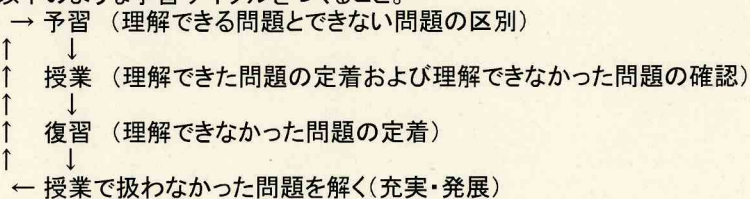
① 予習について

- ・教科書を一通り読み、例や例題を参考にして練習問題等を解いておくこと。
- ・発展的内容の問題では、初めて見るような問題も出てくる。そのときに、いかに問題にアプローチしていくかという力が必要である。初めから解答を見ているとそのような力がつかないうえ、内容も定着しない。

② 復習について

- ・授業の内容をノート中心に見直すこと。その次に、配付される対応表に従って傍用問題集や参考書を用いて、問題演習を行うこと。さらに、教科書の節末問題や章末問題、チャートの総合演習など対応表にない問題を解く。

③ 以下のような学習サイクルをつくること。



年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習B	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科・普通 第3学年理型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な課題に対して解決できる実力を養成する。
使用教科書・副教材等	改訂版 数学B(数研出版) 2022 スタンダード 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編(数研出版)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学ⅠAⅡBの各分野の考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。	観察、課題、小テスト等	10%
b. 数学的な見方や考え方	数学ⅠAⅡBの各分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	20%
c. 数学的な技能	数学ⅠAⅡBの各分野において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	10%
d. 知識・理解	数学ⅠAⅡBの各分野における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
	4	7	ベクトル	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			数列	簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	5	11	図形の性質	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			図形と方程式	座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする	○	○	○	○
	6	11	三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	7	1		第1回考査		○	○	○
		計30						

前期	7	8	数と式	数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			関数と方程式	方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	○	○	○	○
			式と証明	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	○	○	○	○
	8	4	整数の性質	整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			場合の数・確率	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	9	11	微分法・積分法	微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
10	1	データの分析	統計の基本的な考えを理解するとともに、それをを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	○	○	○	○	
		計24	第2回考査		○	○	○	
後期	10	7	総合演習	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な課題に対して解決できる実力を養成する。 第3回考査	○	○	○	○
	11	13						
	12	1			計21		○	○
	12	4	総合演習	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な課題に対して解決できる実力を養成する。	○	○	○	○
1	2							
2		計6						

【その他】

① 予習について

・必ず解答を見ずに、まず解くこと。解けた問題と解けなかった問題を明確にし、授業で解けなかった問題を確認するようになるとよい。

・発展的内容の問題では、初めて見るような問題も出てくる。そのときに、いかに問題にアプローチしていくかという力が必要である。初めから解答を見ているとそのような力が出ない。内容も定着しない。

② 復習について

・一度答案を整理した後、解答を見ずに答案が書けるようにすること。最初は物まねでもよいので、きちとした答案を作ること。記述の答案は小論文と同じである。いかに相手を納得させるかが大切である。日頃から訓練しておかないと突然ではできない。

③ 以下のような学習サイクルをつくること。

→ 予習 (理解できる問題とできない問題の区別)

↑

↓

↑

↓

↑

↓

↑

← 授業で扱わなかった問題を解く(充実・発展)

↓

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習A	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科・普通 第3学年文型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な思考ができる実力を養成する。
使用教科書・副教材等	教科書 数学B（数研出版） 問題集 改訂版 キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（受験編） オリジナルプリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学ⅠAⅡBの各分野の考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	観察、課題、小テスト等	10%
b. 数学的な見方や考え方	数学ⅠAⅡBの各分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	20%
c. 数学的な技能	数学ⅠAⅡBの各分野において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	30%
d. 知識・理解	数学ⅠAⅡBの各分野における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	40%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	11	数と式	・数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			2次関数	・2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	5	15	図形と方程式	・図形と方程式の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			さまざまな関数	・三角関数、指数関数、対数関数とそのグラフについて理解し、それらを用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
6	14	微分法・積分法	・微分法・積分法の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○	

前期		ベクトル	・ベクトルの考え方について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○			
	10	第1回考査								
	6	3	数列	・数列の考え方について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○		
	7	13			○	○	○	○		
	8	4			場合の数と確率	・場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	9	11			整数の性質	・整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
10	1	総合演習			・数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な思考ができる実力を養成する。	○	○	○	○	
	計32	第2回考査			○	○	○			
後期	10	11	演習	・数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な思考ができる実力を養成する。	○	○	○	○		
	11	16								
	12	1			第3回考査		○	○	○	
		計28								
	12	9	演習	・数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な思考ができる実力を養成する。	○	○	○	○		
1	13					○	○	○		
2										
	計22									

【その他】

①予習について

・必ず解答を見ずに、まず解くこと。(初めて見るような問題に出くわした際も、いかに問題にアプローチしていくかという力が必要である。初めから解答を見ているとそのような力がつかないうえ、内容も定着しない。)解けた問題と解けなかった問題を明確にし、授業で解けなかった問題を確認するようにするとよい。

②復習について

・一度答案を整理した後、解答を見ずに答案が書けるようにすること。最初はまねてもよいので、きちっとした答案を作成すること。答案は小論文と同じと考えてよい。いかに相手を納得させるかが大切となる。この力は、日頃から訓練してはじめてつくもので、ある日突然力がつくものではない。

・問題解決にスピードを要することもある。しっかりとした記述力があれば、秋以降からの演習でスピードも十分ついてくる。

③以下のような学習サイクルをつくること。

→ 予習 (理解できる問題とできない問題の区別)

↑

↑ 授業 (理解できた問題の定着および理解できなかった問題の確認)

↑

↑ 復習 (理解できなかった問題の定着)

↑

← 授業で扱わなかった問題を解く(充実・発展)

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習β	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科・創造表現コース 3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	「数学Ⅰ」の数と式、図形と計量、二次関数、データの分析、及び「数学A」の場合の数と確率、図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
使用教科書・副教材等	改訂版 高等学校 数学A(数研出版) 短期攻略 大学入学共通テスト 数学Ⅰ・A 基礎編(駿台文庫) オリジナルプリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学ⅠAの各分野の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	観察、課題、小テスト等	10%
b. 数学的な見方や考え方	数学ⅠAの各分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察、定期考査、実力テスト等	20%
c. 数学的な技能	数学ⅠAの各分野において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察、定期考査、実力テスト等	30%
d. 知識・理解	数学ⅠAの各分野における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。	観察、定期考査、実力テスト等	40%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	11	(STAGE 1) 数と式・集合と命題	・数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。	○	○	○	○
			2次関数	・2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識する。	○	○	○	○
			図形と計量	・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識する。	○	○	○	○
	5	11	データの分析	・統計の基本的な考えを理解する。	○	○	○	○
			場合の数と確率	・場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深める。	○	○	○	○
	6	7	図形の性質	・平面図形や空間図形の性質についての理解を深める。	○	○	○	○
		1		第1回考査		○	○	○
		計30						

前期	7	8	(STAGE 2) 数と式・集合と命題	・式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			2次関数	・2次関数とそのグラフを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	8	6	図形と計量	・三角比を用いた計量の考えを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			データの分析	・統計の基本的な考えを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	○	○	○	○
	9	9	場合の数と確率	・場合の数や確率を求めるときの基本的な考え方を事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	10	1	図形の性質	・平面図形や空間図形の性質を事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			計24	第2回考査		○	○	○
後期	10	10	総合演習	・数学Ⅰ・Aの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な課題に対応できる実力を養成する。 第3回考査	○	○	○	○
	11	10						
	12	1						
			計21					
	12	5	総合演習	・数学Ⅰ・Aの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な課題に対応できる実力を養成する。	○	○	○	○
1	2							
2								
			計7					

【その他】

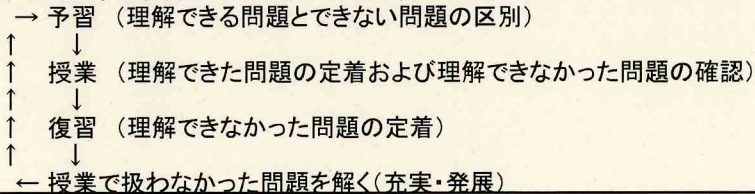
① 予習について

・必ず解答を見ずに、まず解くこと。解けた問題と解けなかった問題を明確にし、授業で解けなかった問題を確認するようになるとよい。

② 復習について

・一度答案を整理した後、解答を見ずに答案が書けるようにすること。最初は解答を写してみるなどの真似でもよいので、きちっとした答案を作ってみる。記述試験の答案は小論文と同じと考えてよい。いかに相手を納得させるかが大切となる。この力は、日頃から訓練してはじめてつくもので、ある日突然力がつくものではない。

③ 以下のような学習サイクルをつくること。



年間指導計画表

教科・科目	理科・化学演習	単位数	2単位
		学科・学年・学級	3年生普通科普通文型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:化学基礎(啓林館) 問題集:セミナー化学基礎(第一学習社), NEW GLOBAL 化学基礎(東京書籍), 問題タイプ別 大学入試センター試験対策問題集 化学基礎2021(実教出版) 資料集:改訂版 フォトサイエンス 化学図録(数研出版) 実験書:広島県高等学校化学実験書委員会編 広島県版 化学実験書

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	提出物 授業態度 実験操作	10%
b. 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	考査 小テスト レポート 授業態度	10%
c. 技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	考査 実験操作 レポート 授業態度	20%
d. 知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	考査 提出物 小テスト	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	20	問題演習 第1回考査	既習事項の確認と発展的な課題について考察を行う。	○	○		○
	5							
	6						○	○
前期後半 (第2回)	7	16	問題演習 第2回考査	既習事項の確認と発展的な課題について考察を行う。	○	○		○
	8							
	9					○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
後期前半 (第3回)	10	14	問題演習	既習事項の確認と発展的な課題について考察を行う。	○	○		○
	11							
	12		第3回考査			○	○	○
後期後半 (第4回)	12 1	20	問題演習	自己の課題について考察を行う。		○	○	○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物演習	単位数	2単位
		学科・学年・学級	3年生普通科普通文型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察や実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書：高等学校 改訂 生物基礎(第一学習社) 資料集：スクエア最新図説生物neo(第一学習社) 問題集：セミナー生物基礎(第一学習社) つかむセンター生物基礎(浜島書店)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	提出物 授業態度 実験操作	10%
b. 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	考査 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	考査 実験操作 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	考査 提出物 小テスト	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	20	演習① 生物の多様性と生態系の復習 生物と遺伝子の復習 第1回考査	<ul style="list-style-type: none"> 生物を形づくる細胞について復習する。 原核細胞と真核細胞の共通性と相異性を理解し、生命の基本的な構造を復習する 代謝、同化、異化、ATP、光合成、呼吸の復習する。 細胞分裂、分裂期の染色体やDNAの動きを復習する。 タンパク質、酵素について復習する。 DNAの遺伝情報の翻訳の流れを、遺伝子の発現について復習する。 	○	○	○	○
	5				○	○		○
	6				○	○		○
					○	○		○
【第1回の評価方法】 第1回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								

前期後半 (第2回)	6	演習② 生物の内部環境の維持の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・体液の種類とその関係、酸素解離曲線について復習する。 ・肝臓の構造や働き、生物の浸透圧調節について復習する。 ・皮膚などの役割、免疫のしくみ、二次応答の起こるしくみを復習する。 ・免疫疾患と医療の関わりについて復習する。 ・自律神経やホルモン、血糖量や体温調節について復習する。 	○	○	○	○
	7			○	○	○	○
	8			○	○	○	○
	9			○	○	○	○
		第2回考査		○	○	○	○
【第2回の評価方法】 第2回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。							
後期前半 (第3回)	10	演習③ 生物の多様性と生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の階層構造、光の強さと光合成速度の関係を復習する。 ・陽樹、陰樹、陽葉、陰葉について復習する。 ・乾性遷移や二次遷移について復習する。 ・炭素・窒素循環について復習する。 ・生物の個体数や量、変動について復習する。 ・人間活動の生態系への影響を復習する。 	○	○	○	○
	11			○	○	○	○
	12			○	○	○	○
				○	○	○	○
		第3回考査		○	○	○	○
【第3回の評価方法】 第3回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。							
後期後半 (第4回)	1	演習④ 総復習	<ul style="list-style-type: none"> ・生物基礎の内容について問題演習を行う。 		○		○
	2						
	3						
		20					
【第4回の評価方法】 これまでの評価を加味し、総合的に評価する。							
【年間の学習状況の評価方法】 前期前半から後期後半までの評価を総合し、年間の評価とする。							

年間指導計画表

教科・科目	理科・地学演習	単位数	2単位
		学科・学年・学級	3年生普通科普通文型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:地学基礎 改訂版(啓林館) 資料集:九訂版スクエア最新図説地学(第一学習社) 問題集:2021セミナー地学基礎(第一学習社) ベストフィット地学基礎 3rdEdition(実教出版) マーク式基礎問題集地学基礎(河合塾)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	各テーマにおいて、興味・関心を持って取り組んでいるか。授業・実験・観察に意欲的に取り組み、より深く理解しようと努めている。	提出物 小テスト 授業態度	10%
b. 思考・判断・表現	各テーマにおいて、地学的な事物・現象について疑問を持ち、問題点を科学的に考察し、そこから導き出した考えを表現することができる。	考査 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	各テーマにおいて、実験・観察の技能を習得しているか。また観察・実験の過程や結果をまとめ、考察した考えを表現できる。	考査 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	各テーマにおいて、地学的な事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけている。	考査 提出物 小テスト	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	20	オリエンテーション 自然との共生 演習① 1. 活動する地球 2. 移り変わる地球 第1回考査	①地球上の環境・エネルギー問題や資源について理解する。 ②地球の形と大きさについて復習する。 ③地球内部の層構造について復習する。 ④プレート運動について復習する。 ⑤火山と地震の発生の仕組みについて復習する。 ⑥堆積岩とその形成について復習する。 ⑦地層の形成と地質構造について復習する。 ⑧古生物の変遷と地球環境について復習する。	○		○	○
	5				○	○	○	○
	6				○	○	○	○
【第1回の評価方法】 第1回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
前期後半 (第2回)	6	16	演習② 3. 大気と海洋 4. 宇宙の構成 第2回考査	①地球の熱収支について復習する。 ②大気と海水の運動について復習する。 ③太陽と恒星について復習する。 ④宇宙のすがたについて復習する。	○	○	○	○
	7				○	○	○	○
	8				○	○	○	○
	9				○	○	○	○
【第2回の評価方法】 第2回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
後期前半 (第3回)	10	14	演習③ 総復習 第3回考査	地学基礎の全範囲の内容を理解し、応用・実践問題に対応できるようにする。		○	○	○
	11					○	○	○
	12					○	○	○
【第3回の評価方法】 第3回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
後期後半 (第4回)	1	20	演習④ 総復習	地学基礎の内容についての問題演習を行う。		○	○	○
	2					○	○	○
	3					○	○	○
【第4回の評価方法】 これまでの評価を加味し、総合的に評価する。								
【年間の学習状況の評価方法】 前期前半から後期後半までの評価を総合し、年間の評価とする。								

年間指導計画表

教科・科目	理科・物理	単位数	5単位
		学科・学年・学級	3年生普通科普通理型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高めるために、演示実験、生徒実験を多く行い、物理学的に探究する能力と態度を育てる。また、講義を通して、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 具体的には、力学、電磁気学、熱力学、原子物理を学習し知識や科学的考察力の定着・涵養を目標とする。
使用教科書・副教材等	教科書：高等学校 物理(第一学習社) 問題集：セミナー物理(第一学習社)、 物理重要問題集(数研出版)、 チェック&演習 物理(数研出版)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	各テーマについて興味・関心を持って取り組んでいるか。授業・実験・観察に意欲的に取り組み、より深く理解しようと努めているか。これらをノート、プリント、考査、実力テストおよび授業態度から評価する。	提出物 授業態度 実験操作	10%
b. 思考・判断・表現	物理現象について疑問を持ち、問題点を客観的に把握できるか。またその問題点の解決方法が着想できるか。これらをノート、プリント、考査、実力テストから評価する。	考査 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	実験・観察の技能を習得しているか。その結果を表やグラフにしてわかりやすく表現し、かつ文章で表現できるか。これらをノート、プリント、レポート、考査、実力テストを通して評価する。	考査 実験操作 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	物理現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけているか。これらを考査、実力テスト、プリント、ノートを通して評価する。	考査 提出物 小テスト	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
前期前半 (第1回)	4	50	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ●円運動をする物体に働く力について理解すること。 ・等速円運動の速度、周期、角速度、向心加速度及び向心力について理解すること。 ・慣性力である遠心力を理解すること。 ●単振動をする物体に働く力などについて理解すること。 ・単振動と等速円運動を関連付けて理解すること。 ・単振動をする物体の位置、速度、加速度の表し方、単振動をする物体にははたらく復元力について理解すること。 ・ばね振り子と単振り子について理解すること。 ●万有引力の法則について理解すること。 ・万有引力の位置エネルギーについて宇宙速度などを理解すること。 	○				
	5		①円運動			○		○	
	6		②単振動			○		○	
			③万有引力			○		○	○
			第1回考査		○	○	○	○	
【第1回の評価方法】 第1回考査、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。									

前期後半 (第2回)	6	40	2. 熱力学 ①気体の分子運動	<ul style="list-style-type: none"> ●気体の内部エネルギーについて、気体の分子運動と関連付けて理解すること。 ・理想気体について、内部エネルギーが絶対温度に比例することを理解すること。 ●気体の状態変化における熱、仕事及び内部エネルギーの関係を理解すること。 ・等圧変化(定圧変化)などの気体の状態変化において、内部エネルギーを含めたエネルギー保存の法則として熱力学第一法則が成り立つことを理解すること。 ●電荷が相互に及ぼし合う力や電場の表し方を理解すること。 ・電荷が相互に及ぼし合う力、電気量の保存、電界の性質、電気力線、静電誘導を理解すること。 ●電場と電位の関係について理解すること。 ・電荷の移動と仕事の関係、電場と電位の関係、等電位線を実験を用いて理解すること。 	○			○	
	7		②気体の状態変化		○			○	
	8		3. 電場と電位 ①静電気			○	○		
	9		②電場と電位 第2回考査					○	
【第2回の評価方法】 第2回考査, 提出物(実験レポートを含む), 授業態度を総合的に評価する。									
後期前半 (第3回)	10		③コンデンサー	<ul style="list-style-type: none"> ●コンデンサーの性質を理解すること。 ・コンデンサーの充電と放電, 電気容量, 空気中に置かれた平行板コンデンサーなどの基本的な性質を理解する。 ・コンデンサーの接続における合成容量, 電気容量と誘電体との関係を理解すること。 ●電気回路について理解すること。 ・キルヒホッフの法則, 抵抗率の温度変化, 電池の起電力と内部抵抗, ホイットストンブリッジ, 電球の電流特性などを理解すること。 ・半導体のpn接合の特性, 電池の起電力と内部抵抗の測定, 電球やダイオードの電流特性, ホイットストンブリッジによる抵抗値について理解すること。 ●電流がつくる磁場の様子を理解すること。 ・直線電流, 円形電流, ソレノイドによる磁場を理解すること。 ●電流が磁場から受ける力について理解すること。 ・電流が磁場から受ける力を表す式を扱い, ローレンツ力について理解し, 荷電粒子の運動について理解すること。 ●電磁誘導と交流について, 観察, 実験を通して現象や法則を理解すること。 ・コイルを貫く磁束の変化, 導線が磁束を横切るときに生じる誘導起電力, 自己誘導, 相互誘導, 交流発電機の仕組みを理解すること。 ・コンデンサーやコイルのリアクタンス, 交流回路のインピーダンスを理解すること。 ●電磁波の性質とその利用について理解すること。 ・電磁波の基本的な性質, 電波の利用, 電気振動や電磁波の発生を理解すること。 	○			○	
	11		④電気回路		○				○
	11	35	4. 磁場と電流 ①電流がつくる磁場		○		○		
	12		②電流が磁場から受ける力 ③電磁誘導と交流 ④電磁波 第3回考査		○			○	○
【第3回の評価方法】 第3回考査, 提出物(実験レポートを含む), 授業態度を総合的に評価する。									
後期後半 (第4回)	1		5. 原子 ①電子	<ul style="list-style-type: none"> ●電子の電荷と質量について理解すること。 ・電子の比電荷, 電気素量, 真空放電を理解すること。 ●電子の粒子性と波動性について理解すること。 ・光電効果, 光量子仮説, 電子線回折, 物質波を理解すること。 ●原子の構造及びスペクトルと電子のエネルギー準位の関係を理解すること。 ・原子の構造, α 粒子の散乱実験原子が出す光のスペクトルと電子のエネルギー準位の関係, ボーアの原子モデルを理解すること。 ●原子核の構成, 原子核の崩壊, 核反応について理解すること。 ・原子核の構成, 原子核の崩壊, 半減期, 核分裂, 核融合, 原子核反応, 質量とエネルギーの等価性を理解すること。 ●素粒子の存在について理解すること。 ・素粒子の存在と基本的な力などについて触れる。 	○			○	
	2		②粒子性と波動性					○	
	3	50	③原子の構造 ④原子核の構成 ⑤素粒子		○			○	○
【第4回の評価方法】 実力テスト, 提出物(実験レポートを含む), 授業態度を総合的に評価する。									
【年間の学習状況の評価方法】 前期前半から後期後半までの評価を総合し, 年間の評価とする。									

年間指導計画表

教科・科目	理科・化学	単位数	4単位
		学科・学年・学級	3年生普通科普通理型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書：化学(啓林館) 問題集：セミナー化学基礎+化学(第一学習社)、化学重要問題集(数研出版)、問題タイプ別 大学入試センター試験対策問題集 化学(実教出版) 資料集：改訂版 フォトサイエンス 化学図録(数研出版) 実験書：広島県高等学校化学実験書委員会編 広島県版 化学実験書

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	提出物 授業態度 実験操作	10%
b. 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	考査 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	考査 実験操作 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	考査 提出物 小テスト	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容		学習のねらい		評価の観点			
			α	β	α	β	a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	40	脂肪族炭化水素	反応速度	脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解すること。	反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解すること。	○	○		○
	5		酸素を含む脂肪族	化学平衡 (アミノ酸を含む)	アルコール、ケトン、アルデヒド、カルボン酸、エステルなどの脂肪族化合物の性質や反応について理解すること。	可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解すること。水のイオン積、pH及び弱酸や弱塩基の電離平衡について理解すること。	○	○		○
	6		芳香族炭化水素		芳香族炭化水素の構造、性質及び反応について理解すること。		○	○		○
	6		第1回考査				○	○	○	

前期後半 (第2回)	7	酸素・窒素を含む芳香族化合物	天然高分子化合物	酸素・窒素を含む芳香族化合物の構造、性質及び合成について理解すること。	天然高分子化合物の構造や性質について理解すること。	○	○		○
	8	合成高分子化合物		合成高分子化合物の構造、性質及び合成について理解すること。		○	○		○
	9	生活と有機化合物	問題演習	有機化合物が、その特徴を生かして人間生活の中で利用されていることを理解すること。	既習事項の確認と発展的な課題についての考察を行うこと。	○	○		○
	32	生活と高分子化合物 第2回考査		高分子化合物が、その特徴を生かして人間生活の中で利用されていることを理解すること。		○	○		○

学期	月	時数	学習内容		学習のねらい		評価の観点			
			α	β	α	β	a	b	c	d
後期前半 (第3回)	10	28	問題演習	問題演習	既習事項の確認と発展的な課題についての考察を行うこと。	既習事項の確認と発展的な課題についての考察を行うこと。	○	○	○	○
	11		生徒実験		実験を通して、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けること。		○	○	○	○
	12		第3回考査					○	○	○
後期後半 (第4回)	12 1 2	40	問題演習		自己の課題に沿って、既習事項を確認する。		○	○	○	

【その他】第3回までは、 α 、 β の2展開で行う。評価は α 、 β の評価を総合して行う。4回は α 、 β の区別なく行う。

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物	単位数	5単位
		学科・学年・学級	3年生普通科普通理型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生物や生物現象についての観察や実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書: 高等学校 改訂 生物(第一学習社) 資料集: スクエア最新図説生物neo(第一学習社) 問題集: セミナー生物(第一学習社) 生物重要問題集—生物基礎・生物(数研出版)

2 評価の観点等

観点	趣旨		
観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	提出物 授業態度 実験操作	10%
b. 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	考查 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	考查 実験操作 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	考查 提出物 小テスト	60%

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	50	第3章 遺伝情報の発現 2. 遺伝子の発現調節	・遺伝子の発現が調節されることで、細胞が分化することを理解する。 ・真核生物と原核生物における遺伝子の発現調節の違いを理解する。	○	○	○	○
	5		3. バイオテクノロジー	・遺伝子組換え技術の基本的な手法について理解する。 ・バイオテクノロジーの医療などへの応用と課題について理解する。		○		○
	6		第4章 生殖と発生 1. 有性生殖における遺伝的多様性	・減数分裂と受精を経て、遺伝子の組合せが多様になることを理解する。 ・遺伝子の連鎖と組換えについて理解し、組換えによって遺伝的多様性がさらに大きくなることを理解する。	○	○		○
			2. 動物の配偶子形成 3. 動物の発生	・卵や精子は減数分裂を含む一連の過程によって形成されることを理解する。 ・受精のしくみを理解する。 ・動物が1個の受精卵から複雑なからだをつくりあげる過程について、ウニとカエルを例に理解する。		○	○	○
			第1回考查		○	○	○	
【第1回の評価方法】 第1回考查、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								

前期後半 (第2回)	7	4. 動物の発生における形態形成のしくみ 5. 植物の発生	<ul style="list-style-type: none"> 細胞の分化の方向の決定には、特定のタンパク質の作用や濃度勾配などが関与していることを理解する。 特定の遺伝子が順次発現することによって形態形成が進むしくみを理解する。 被子植物の配偶子形成と受精、胚発生の過程について理解する。 植物の体軸の決定や器官の分化とそれらに関わる遺伝子の働きについて理解する。 	○	○	○	○
	8	第5章 生物の環境応答 1. 植物の環境応答	<ul style="list-style-type: none"> 植物は環境の情報を受容し、これに応じて生活していることを理解する。 受容体や植物ホルモンによる植物の環境応答のしくみを理解する。 	○	○	○	○
	9	2. 動物の環境応答	<ul style="list-style-type: none"> 動物がさまざまな刺激を受容するしくみを理解する。 受容された刺激の情報が神経によって伝えられるしくみを理解する。 神経によって伝えられた情報によって筋肉などが反応するしくみを理解する。 	○	○	○	○
		3. 動物の行動	<ul style="list-style-type: none"> 動物の行動には、生得的行動や習得的行動があることを理解する。 生得的行動と習得的行動のしくみを理解する。 	○	○	○	○
		第2回考査		○	○	○	○
【第2回の評価方法】 第2回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。							
後期前半 (第3回)	10	第6章 生物群集と生態系 1. 個体群と生物群集	<ul style="list-style-type: none"> 個体群の特徴とその変動について理解する。 個体群内や個体群間の相互作用について理解する。 生物群集の成り立ちと、多様な種が共存するしくみを理解する。 	○	○	○	○
	11	2. 生態系の物質生産 3. 生態系と生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> 生態系内の物質生産と物質の移動について理解する。 生態系ごとの物質移動の特徴を理解する。 生態系での物質移動をエネルギーの視点から理解する。 生物多様性には、生態系、種、遺伝子の3つのとらえ方があることを理解する。 生物多様性に影響を与えるさまざまな要因と保全の意義を理解する。 	○	○	○	○
	12	第7章 生物の進化 1. 進化のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 進化は突然変異・自然選択・遺伝的浮動の3つの要因によって起こることを理解する。 進化の過程や系統関係は、DNAの塩基配列の解析などによって明らかにできることを理解する。 種分化は地理的隔離などによって生じることを理解する。 	○	○	○	○
		2. 生物の起源と生物の変遷	<ul style="list-style-type: none"> 生命が誕生するまでの化学進化を原始地球の環境と関連付けて理解する。 生物の進化を地球環境の変化と関連づけて理解する。 人類の進化を生活環境の変化と関連づけて理解する。 	○	○	○	○
		第8章 生物の系統 1. 生物の分類の変遷と系統 2. 生物の系統関係 第3回考査	<ul style="list-style-type: none"> 生物は系統にもとづいて分類できることを理解する。 生物の分類の階級について理解する。 生物の分類群は、それぞれ共通の特徴を持つことを理解する。 	○	○	○	○
【第3回の評価方法】 第3回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。							
後期後半 (第4回)	1 2 3	総復習		○	○	○	○
		50					
【第4回の評価方法】 これまでの評価を加味し、総合的に評価する。							
【年間の学習状況の評価方法】 前期前半から後期後半までの評価を総合し、年間の評価とする。							

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物基礎	単位数	3単位
		学科・学年・学級	3年生普通科創造表現コース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察や実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書: 高等学校 改訂 生物基礎(第一学習社) 資料集: スクエア最新図説生物neo(第一学習社) 問題集: セミナー生物基礎(第一学習社) つかむ生物基礎(浜島書店)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	提出物 授業態度 実験操作	10%
b. 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	考査 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	考査 実験操作 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	考査 提出物 小テスト	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	30	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> すべての生物は共通の祖先から進化し、多様化したなかでも共通性がみられることを理解する。 生命の基本単位である細胞にみられる共通性と多様性を理解する。 顕微鏡による細胞の観察、マイクロメーターによる測定。 代謝は異化と同化に大別され、酵素によって円滑に進められることを理解する。 代謝に伴うエネルギーの出入りや変換は、ATPが仲立ちすることを理解する。 代謝の代表的な反応である光合成と呼吸について理解する。 		○		○
	5				○		○	○
	6		○		○	○	○	
			第1回考査		○	○	○	○
【第1回の評価方法】 第1回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								

前期後半 (第2回)	6	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体の構造	<ul style="list-style-type: none"> ・DNAは、ヌクレオチドが多数結合した物質で、二重らせん構造をしていることを理解する。 ・塩基どうしの結合には相補性があることを理解する。 ・DNAの遺伝情報は、間期に相補性にもとづいて複製されることを理解する。 ・複製された遺伝情報は、体細胞分裂で各細胞に均等に分配されることを理解する。 ・DNAの抽出実験と体細胞分裂の観察。 ・DNAの塩基配列はRNAに写しとられ、その配列にもとづいてタンパク質が合成されることを理解する。 ・遺伝子として働いているのは、ゲノムを構成するDNAの一部であることを理解する。また、細胞によって発現する遺伝子に違いがあることを理解する。 	○	○	○	○
	7	2. 遺伝情報の複製と分配		○	○	○	○
	8	3. 遺伝情報とタンパク質の合成		○	○	○	○
	9	第3章 生物の体内環境 1. 体液とその働き		○	○	○	○
		2. 体内環境の維持のしくみ		○	○	○	○
【第2回の評価方法】 第2回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。							
後期前半 (第3回)	10	3. 生体防御	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトには病原体を排除する免疫が備わっていることを理解する。 ・免疫は自然免疫と獲得免疫が相互作用し、強制的に働くことによって、適切な反応が起こることを理解する。 ・免疫の異状によって生じる病気があることを理解する。 ・免疫のしくみが、どのように医療に利用されているかを理解する。 	○	○	○	○
	11	第4章 植生の多様性と分布 1. 植生と遷移		○	○	○	○
		2. バイオームとその分布		○	○	○	○
	12	第5章 生態系とその保全 1. 生態系		○	○	○	○
		2. 生態系のバランスと保全		○	○	○	○
【第3回の評価方法】 第3回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。							
後期後半 (第4回)	1 2 3	総復習		○	○	○	○
	30						
	【第4回の評価方法】 これまでの評価を総合して評価する。						
【年間の学習状況の評価方法】 前期前半から後期後半までの評価を総合し、年間の評価とする。							

年間指導計画表

教科・科目	理科・地学演習	単位数	1単位
		学科・学年・学級	3年生普通科創造表現コース

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書: 地学基礎 改訂版(啓林館) 資料集: 九訂版スクエア最新図説地学(第一学習社) 問題集: 2021セミナー地学基礎(第一学習社) ベストフィット地学基礎 3rdEdition(実教出版) マーク式基礎問題集地学基礎(河合塾)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	各テーマにおいて、興味・関心を持って取り組んでいるか。授業・実験・観察に意欲的に取り組み、より深く理解しようと努めている。	提出物 小テスト 授業態度	10%
b. 思考・判断・表現	各テーマにおいて、地学的な事物・現象について疑問を持ち、問題点を科学的に考察し、そこから導き出した考えを表現することができる。	考査 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	各テーマにおいて、実験・観察の技能を習得しているか。また観察・実験の過程や結果をまとめ、考察した考えを表現できる。	考査 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	各テーマにおいて、地学的な事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけている。	考査 提出物 小テスト	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	10	オリエンテーション 自然との共生 演習① 1. 活動する地球 2. 移り変わる地球 第1回考査	①地球上の環境・エネルギー問題や資源について理解する。 ②地球の形と大きさについて復習する。 ③地球内部の層構造について復習する。 ④プレートの運動について復習する。 ⑤火山と地震の発生の仕組みについて復習する。 ⑥堆積岩とその形成について復習する。 ⑦地層の形成と地質構造について復習する。 ⑧古生物の変遷と地球環境について復習する。	○		○	○
	5				○	○	○	○
	6				○	○	○	○
【第1回の評価方法】 第1回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
前期後半 (第2回)	6	8	演習② 3. 大気と海洋 4. 宇宙の構成 第2回考査	①地球の熱収支について復習する。 ②大気と海水の運動について復習する。 ③太陽と恒星について復習する。 ④宇宙のすがたについて復習する。	○	○	○	○
	7					○	○	○
	8					○	○	○
	9					○	○	○
【第2回の評価方法】 第2回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
後期前半 (第3回)	10	7	演習③ 総復習 第3回考査	地学基礎の全範囲の内容を理解し、応用・実践問題に対応できるようにする。		○	○	○
	11					○	○	○
	12					○	○	○
【第3回の評価方法】 第3回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
後期後半 (第4回)	1	10	演習④ 総復習	地学基礎の内容についての問題演習を行う。		○	○	○
	2							
	3							
【第4回の評価方法】 これまでの評価を加味し、総合的に評価する。								
【年間の学習状況の評価方法】 前期前半から後期後半までの評価を総合し、年間の評価とする。								

年間指導計画表

教科・科目	保健体育・体育	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科普通・第3学年男女 普通科創造表現コース第3学年男女

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動の合理的な実践や競争・協同の経験を通して、運動技能を高め、競技の規則を守り、互いに協力をして責任を果たすなどの態度を育てる。 ・健康・安全に留意して、運動すると共に体力の向上を図り、心身のバランスのとれた発育をうながす。
使用教科書・副教材等	本校体育実技ノート、ステップアップ高校スポーツ(大修館)、現代高等保健体育(大修館)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、構成、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	授業実技ノート	25%
b. 思考・判断・表現	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指した、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高め、運動を継続するための計画を工夫している。	授業実技ノート	25%
c. 技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	スキルテスト	25%
d. 知識・理解	運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、スポーツの歴史、文化的な特性や現代スポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	授業実技ノート	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	26	体づくり運動	「体育授業の受け方」について確認 集団行動、体ほぐし運動、ラジオ体操を再確認	○	○		○
	5		選択Ⅰ(男女共修) 器械運動、陸上競技、水泳 ダンスから選択	技術などの名称や行い方、伝統的な考え方、文化的背景と表現の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする	○	○	○	○
	6		選択Ⅱ(男女共修) 球技、武道から選択	技術などの名称や行い方、伝統的な考え方、文化的背景と表現の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする	○	○	○	○
	7							
	8	8	体づくり運動 選択Ⅱ(男女共修)	体カトレーニング	○	○	○	○
	9		体育理論	「豊かなスポーツライフの設計」について学習する 生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ	○	○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
後期	10	18	選択Ⅲ(男女共修) 球技, 武道から選択	技術などの名称や行い方, 伝統的な考え方, 文化的背景と表現の仕方, 体力の高め方, 課題解決の方法, 競技会の仕方などを理解し自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする	○	○	○	○
	11				○	○	○	○
	12		体育理論	「豊かなスポーツライフの設計」について学習する 日本のスポーツ振興 スポーツと環境	○	○		○
	1	14	選択Ⅲ(男女共修)		○	○	○	○
2								
3								

【その他】

- ・各種目の積極的な参加と運動の特性を理解し, 自ら考え, 工夫して取り組み, ゲームなどを楽しめるようになってほしい。
 - ・自分の体力を知り, 自己の体力の向上に何が必要か課題意識を持ち, 具体的な目標設定ができるようになってほしい。
 - ・運動技能の習得だけでなく, 準備や後片付けなど協力共同の場面で積極的に行動してほしい。
 - ・安全に配慮し, 互いが協力しながら楽しく授業に参加してほしい。
-
- ・授業を休まない。また, 見学をするときは, 授業担当者に事前に申し出て, 見学ノートを提出する。
 - ・体操服を忘れない。また, 体操服をきちんと着用する。
 - ・授業開始時間を守る。(着替えを敏速にする。)

年間指導計画表

教科・科目	外国語 コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科普通・第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> 教科書： Revised POLESTAR English Communication Ⅲ (チャート出版) 副教材： システム英単語 改訂新版 (駿台文庫) NEO 現代を探る (いっずな書店) 読んで聴いて速読力アップ エル・アール⑤ (いっずな書店) アップリフト英語長文読解入試演習3 (Z会) パワーマックス共通テスト対応模試英語リーディング40minutes × 10回 (Z会)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 扱われている題材について、知っていることや思っていることを発言しようしたり、聞こうしたりする。 ペアワークやグループワークにおけるコミュニケーション活動に積極的に参加しようとする。 	授業内観察 課題等	20%
b. 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を簡潔にまとめて、話したり書くことで表現できる。 本文を読んで、自分の意見を述べるができる。 ペアやグループで対話を行い自分の考えを話すことができる。 	定期考査 パフォーマンス テスト 授業内観察	25%
c. 技能	<ul style="list-style-type: none"> 本文の流れや内容を的確に把握し、内容に関する設問に答えることができる。パラグラフや文全体の内容を要約することができる。 Listening Quizを正しく聞き取り、設問に答えることができる。 わからない単語があっても、文脈から推測して的確に文意を理解することができる。 	定期考査 授業内観察	30%
d. 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 本文で取り上げられた題材が、知識として身につけている。 本文で取り上げられた表現を理解し、その表現を用いて文を書いたり、発話したりすることができる。 	定期考査 パフォーマンス テスト 授業内観察	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4月	30	Lesson 1 The Future of Nursing-Care Robots	本文の内容を理解し、英文を音読する、英語の質問に答える、ペアの相手と話すといった言語活動を行う。また必要に応じて、表現・文構造・文法について確認する。	○		○	
	5月		Lesson 2 Making English the Official Language in the Office	介護ロボットの種類やその役割が理解できる。介護ロボットに対する日本人とドイツ人の意見の違いが理解できる。	○		○	○
	6月		Lesson 3 An Appaling Waste of Food	いくつかの日本の会社が英語を公用語にしている理由が理解できる。		○	○	
				食品廃棄物について、知っていることや思っていることを発言しようしたり、聞こうしたりする。食品廃棄物を減らすためにできることについて自分なりに考えた意見を発言しようしたり、しっかり聞こうしたりする。		○		○

学期	月	時数		学習のねらい	a	b	c	d
前期	7月	24	Lesson 4 Maturing the Art of Living	本文の内容を理解し、英文を音読する、英語の質問に答える、読んだ内容について討議するといった言語活動を行う。			<input type="radio"/>	
	8月		Lesson 5 Understanding Communication Without Words	人生で成功するために大切なことが理解できる。 「人生の達人」についての老子の言葉が理解できる。 非言語コミュニケーションについて、知っていることや思っていることを発言しようしたり、聞こうしたりする。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	9月							
後期	10月	21	Lesson 6 How to Make Japan "Cool"	本文の内容を理解し、英文を音読する、英語の質問に答える、読んだ内容について討議するといった言語活動を行う。		<input type="radio"/>		
	11月		Lesson 7 The Growth of Dictionaries in Japan	今治タオルの衰退と復活の経緯が理解できる。 90年代の日本の製造業の生産拠点の海外シフトについて理解できる。			<input type="radio"/>	
	12月		Lesson 8 Questions Without Correct Answers	堀達之助がどのような人物だったのかが理解できる。 英和辞典の発展の歴史が理解できる。 『Lady, or the Tiger?』の物語の内容が理解できる。 「正解のない問い」に答えを出すために必要なものが理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
後期	1月	30	Lesson 9 World Heritage Sites : Not Always a Good Idea?	本文の内容を理解し、英文を音読する、英語の質問に答える、読んだ内容について討議するといった言語活動を行う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
	2月		Lesson 10 Space Farming	世界遺産について、知っていることや思っていることを発言しようしたり、聞こうしたりする。 宇宙で野菜を栽培することの重要性が理解できる。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	3月							
【その他】 上記学習計画の中において、適宜、副教材 NEO現代を探る、読んで聴いて速読力アップ エル・アール⑤、アップリフト入試編3を用い、社会的な話題や時事問題について書かれている説明文や評論などに数多く触れ、より高い理解力との養成と、より幅広く深い知識の習得を図る。共通テストのリーディング対策としてパワーマックス共通テスト対応模試英語リーディング40minutes×10回(Z会)を用いて速読・読解力の養成を図る。								

年間指導計画表

教科・科目	外国語 コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科創造表現・第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：Revised POLESTAR English Communication III(チャート出版) ・副教材：システム英単語 Basic 改訂新版(駿台文庫) Pair & Share 2 いいずなりピトレ版 (いいずな書店) Pair & Share 3 いいずなりピトレ版 (いいずな書店) Change the World Basic (いいずな書店) パワーマックス共通テスト対応模試英語リーディング40minutes×10回(Z会)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・扱われている題材について、知っていることや思っていることを発言しようとして、聞こうとして、ペアワークやグループワークにおけるコミュニケーション活動に積極的に参加しようとする。 	授業内観察 課題等	20%
b. 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容を簡潔にまとめて、話したり書くことで表現できる。 ・本文を読んで、自分の意見を述べることができる。 ・ペアやグループで対話を行い自分の考えを話すことができる。 	定期考査 パフォーマンス テスト 授業内観察	25%
c. 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の流れや内容を的確に把握し、内容に関する設問に答えることができ、パラグラフや文全体の内容を要約することができる。 ・Listening Quizを正しく聞き取り、設問に答えることができる。 ・わからない単語があっても、文脈から推測して的確に文意を理解することができる。 	定期考査 授業内観察	30%
d. 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・本文で取り上げられた題材が、知識として身につけている。 ・本文で取り上げられた表現を理解し、その表現を用いて文を書いたり、発話したりすることができる。 	定期考査 パフォーマンス テスト 授業内観察	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4月	30	Lesson 1 The Future of Nursing-Care Robots	本文の内容を理解し、英文を音読する、英語の質問に答える、ペアの相手と話すといった言語活動を行う。また必要に応じて、表現・文構造・文法について確認する。	○		○	
	5月		Lesson 2 Making English the Official Language in the Office	介護ロボットの種類やその役割が理解できる。 介護ロボットに対する日本人とドイツ人の意見の違いが理解できる。	○		○	○
			6月	Lesson 3 An Appaling Waste of Food	いくつかの日本の会社が英語を公用語にしている理由が理解できる。		○	○
				食品廃棄物について、知っていることや思っていることを発言しようとして、聞こうとして、食品廃棄物を減らすためにできることについて自分なりに考えた意見を発言しようとして、しっかり聞こうとして、		○	○	

学期	月	時数	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7月	24	Lesson 4 Maturing the Art of Living	○	○	○	○
	8月		Lesson 5 Understanding Communication Without Words				
	9月						
後期	10月	21	Lesson 6 How to Make Japan "Cool"	○	○	○	○
	11月		Lesson 7 The Growth of Dictionaries in Japan				
	12月		Lesson 8 Questions Without Correct Answers				
後期	1月	30	Lesson 9 World Heritage Sites : Not Always a Good Idea?	○	○	○	○
	2月		Lesson 10 Space Farming				
	3月						
<p>【その他】 Pair & Share 2 いいずなりピトレ版 Pair & Share 3 いいずなりピトレ版 Change the World Basicを用い、社会的な話題や時事問題について書かれている説明文や評論などに数多く触れ、より高い理解力との養成と、より幅広く深い知識の習得を図る。共通テストのリーディング対策としてパワーマックス共通テスト対応模試英語リーディング40minutes×10回を用いて速読・読解力の養成を図る。</p>							

年間指導計画表

教科・科目	英語科・英語表現Ⅱ	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通・3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> 教科書: be English Expression II (いっずな書店) 副教材: 入試必携英作文 Write to the Point (数研出版) 自分の力で書く大学入試英作文 FINAL DRAFT(いっずな書店) 共通テストリスニング 実践30min 2022(エミル出版) パワーマックス共通テスト対応模試英語リスニング×8(Z会)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業内観察 小テスト 課題等	20%
b. 思考・判断・表現	日常生活の身近な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、発表したりして表現する。	授業内観察 定期考査 パフォーマンステスト	40%
c. 技能	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを正確に理解する。	授業内観察 定期考査 小テスト	20%
d. 知識・理解	日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	授業内観察 定期考査 パフォーマンステスト	20%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4月	20	be English Expression II 文章を組み立てる 1「列挙・順序」の段落 2「例示・追加」の段落 3「比較・対照」の段落 4「原因・理由・結果」の段落 5「リーディングの要約」 6「リスニングの要約」	<ul style="list-style-type: none"> 主題文・指示文・結論文からなる段落を英語で書くことができる。 英語の段落展開に沿って、人物や事物を描写したり、説明する文を書くことができる。 人物や事物の類似点・相違点を挙げて英語の段落を書くことができる。 原因や結果を表す表現を使って、因果関係を表す英語の段落を書くことができる。 問題を提起し、解決策を示しながら英語の段落を書くことができる。 文章の要点をつかみ、つなぎの言葉なども使いながら、要約文を書くことができる。 	○	○	○	○
	5月				○	○	○	○
	6月				○	○	○	○
			「英作文Write to the point」 Exercises 2~10					

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7月	16	「英作文Write to the point」 Exercises 11～18	・応用英作文問題を解くことによって、さまざまなテーマの題材を英語で表現できるようにする。	○	○		○
	8月							
	9月							
後期	10月	14	自分の力で書く大学入試英作文 FINAL DRAFT(いいずな書店) 1～10	・応用英作文問題を解くことによって、さまざまなテーマの題材を英語で表現できるようにする。	○	○		○
	11月							
	12月							
後期	1月	20	自分の力で書く大学入試英作文 FINAL DRAFT(いいずな書店) 11～20	・応用英作文問題を解くことによって、さまざまなテーマの題材を英語で表現できるようにする。	○	○	○	○
	2月							
	3月							
<p>【その他】上記学習計画の中において、適宜、共通テストのリスニングテスト対策として 共通テストリスニング 実践30min 2022、パワーマックス共通テスト対応模試英語リスニング×8を用いてリスニング力の養成を図る。</p>								

年間指導計画表

教科・科目	英語科・英語表現Ⅱ	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科 創造表現・3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書: be English Expression II (いいずな書店) ・副教材: CNN Workbook Extended Course(朝日出版) 読んで聴いて速読力アップ エル・アール④(いいずな書店) 読んで聴いて速読力アップ エル・アール⑤(いいずな書店) パワーマックス共通テスト対応模試英語リスニング×8(Z会)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業内観察 小テスト 課題等	20%
b. 外国語表現の能力	日常生活の身近な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、発表したりして表現する。	授業内観察 定期考査 パフォーマンステスト	40%
c. 外国語理解の能力	日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを正確に理解する。	授業内観察 定期考査 小テスト	20%
d. 言語や文化についての知識・理解	日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	授業内観察 定期考査 パフォーマンステスト	20%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4月	20	be English Expression II 文章を組み立てる 1「列挙・順序」のパラグラフ 2「例示・追加」のパラグラフ 3「比較・対照」のパラグラフ 4「原因・理由・結果」のパラグラフ 5「リーディングの要約」 6「リスニングの要約」	<ul style="list-style-type: none"> ・主題文・指示文・結論文からなるパラグラフを英語で書くことができる。 ・英語のパラグラフ展開に沿って、人物や事物を描写したり、説明する文を書くことができる。 ・人物や事物の類似点・相違点を挙げて英語のパラグラフを書くことができる。 ・原因や結果を表す表現を使って、因果関係を表す英語のパラグラフを書くことができる。 ・問題を提起し、解決策を示しながら英語のパラグラフを書くことができる。 ・文章の要点をつかみ、つながりの言葉なども使いながら、要約文を書くことができる。 	○	○	○	○
	5月				○	○	○	○
	6月				○	○	○	○
			読んで聴いて速読力アップ エル・アール④(いいずな書店) Lesson 1～Lesson 11	・英語で表現するときに必要となる文法・語法力を養成する。	○	○		
学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7月	16	読んで聴いて速読力アップ エル・アール④(いいずな書店) Lesson 11～Lesson 21	・英語で表現するときに必要となる文法・語法力を読解を通じて養成する。	○	○		○
	8月				○	○		○
	9月				○	○		○
後期	10月	14	読んで聴いて速読力アップ エル・アール⑤(いいずな書店) Lesson 1～Lesson 10	・英語で表現するときに必要となる文法・語法力を読解を通じて養成する。	○	○		○
	11月				○	○		○
	12月				○	○		○

後 期	1月							
	2月	20	読んで聴いて速読力アップ エル・アール⑤(いいずな書店) Lesson 11~Lesson 21	英語で表現するときに必要な文法・語法力を読解を通じて養成する。	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○
	3月							
<p>【その他】 上記学習計画の中において、適宜、共通テストのリスニングテスト対策として、CNN Workbook Extended Course、2021共通テスト英語リスニング30minutes×7回を用いてリスニング力の養成を図る。</p>								

年間指導計画表

教科・科目	英語講読	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科普通・第3学年(文型クラス)

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> 教科書: Prominence Communication II(東京書籍) 副教材: Cutting Edge Orange 2020(エミル出版) Smart Reader Advanced(いっすな書店)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 読み取ったり、聞き取ったりした内容について、英語での発言などを通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 グループでのディスカッションなど、コミュニケーション活動に積極的に参加しようとする。 	定期考査 授業内観察	20%
b. 外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> 書き手の意向や本文の内容が表現されるように音読することができる。 本文の内容について、自分の意見を話したり、書いたりすることができる。 ペアやグループ活動において自分の考えを説明することができる。 	定期考査 パフォーマンステスト 授業内観察	20%
c. 外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ることができる。 	定期考査、 授業内観察	30%
d. 言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 本文で用いられている表現を理解し、題材についての知識を深めることができる。 書かれた内容を正確に読み取り、外国の事情や時事的な話題に関する知識として身につけている。 	定期考査、 授業内観察	30%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4月	30	Lesson 3 A Window to Ancient Earth	単語の発音、リズムやイントネーションなどの音声的な特徴を捉えて音読することができる。		○	○	○
	5月		Communication Strategy 1	つながりを示す語やフレーズに注意して文章を読み、論理がどのように展開しているかを把握することができる。	○	○		
	6月		Lesson 4 Bonsai Goes Global	場面や状況、目的に応じた表現や論理の展開を表す表現についての知識を身に付けている。			○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7月	24	Lesson 5 Taking the Sting Out of Jellyfish Lesson 6 Does it Spark Joy?	授業を通して学んだことや、学校や家庭などにおける日常生活の中で学んだり経験したりしたことを積極的に活用して話している。 「話すこと」の言語活動に用いられている語句や文構造、文法事項などについての知識を身に付けている。 情報や考えなどについて、互いに質問したり質問に答えたりすることができる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	8月				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	9月							
後期	10月	21	Lesson 7 Malala's Fight for Education Lesson 8 Welcome to the World of Tove Jansson	聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、その概要や自分の考えを簡潔に書くことができる。 必要に応じてメモをとったりするなど、相手の話に関心をもって聞いている。 話し手の意図や気持ちを表すリズムやイントネーションなどの違いを理解している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	11月				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	12月				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
後期	1月	30	Lesson 9 A Country of Poles and Signs Lesson 10 How to Use "If"	聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、その概要や自分の考えを簡潔に書くことができる。 話し手の意図や気持ちを表すリズムやイントネーションなどの違いを理解している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	2月				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	3月				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
<p>【その他】 上記学習計画の中においてCutting Edge Orange 2020、Smart Reader Advancedを用い、多様な英語の形式に触れ、読解力のみならず、聞く、読む、書く、話すの4技能を有機的に関連づけて学習する。</p>								

年間指導計画表

教科・科目	美術史	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科・創造表現コース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美術における歴史的、技法的探究を深める。 ・美しさを探求し積極的に感じとる心を養う。 ・鑑賞する心と態度を養い、制作に活かす。 ・美術における多様な表現の手法、その発展の歴史を学ぶ。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・美術 表現と鑑賞(開隆堂出版株式会社) ・本校作成プリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	・美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現することができる。	授業態度など	10%
b. 芸術的な感受や表現の工夫	・多様な表現形式の特性を生かして資料を作成し、創造的な表現を追求することができる。	レポートなど	50%
c. 創造的な表現の技能	・意図に応じて資料を整理・選択して他者に伝わりやすい工夫をすることができる。	レポートなど	30%
d. 鑑賞の能力	・美術の働きや美術作品の美しさや特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうことができる。	観賞態度など	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4~5	10	◆西洋美術史◆ 古代文明の造形 理想美の追求 ローマ美術	<ul style="list-style-type: none"> ・古代都市の誕生と文化の発展について学ぶ ・ギリシャ美術の理想美について学ぶ ・ローマの建築と彫刻について学ぶ 	○	○		○
	5~6	10	中世の美術 ルネサンス バロックとロココ	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教美術について学ぶ ・自然と人間性の目覚めについて学ぶ ・宮廷の美術と市民の美術について学ぶ 		○	○	○
	7~9	16	近代美術 現代美術	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化した表現について学ぶ ・現代美術の今とゆくえについて学ぶ 	○	○	○	○
後期	10~12	14	◆日本美術史◆ 縄文から古墳 仏教伝来と美術 貴族の美術 鎌倉室町時代の美術	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における造形活動の芽生えについて学ぶ ・仏教伝来とともに発達した建築や彫像技術について学ぶ ・日本的な文化のはじまりについて学ぶ ・宋の文化の導入と写実・禅宗と水墨画について学ぶ 	○	○		○
		10	江戸時代の美術	・庶民の美術と近代化の芽生えについて学ぶ		○	○	○
	12~1	10	日本美術の近代化 現代の美術	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋絵画の導入と変革について学ぶ ・現代の日本美術について学ぶ 	○	○		○

【その他】

年間指導計画表

教科・科目	素描	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科・創造表現コース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・描くことの喜びを知り、意欲的に、より発展的に制作する態度を養う。 ・美しさを探求し積極的に感じとる心を養う。 ・自己の作品や他の作品を鑑賞する態度を養う。 ・基礎的な表現技法について習熟する。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・美術 表現と鑑賞(開隆堂出版株式会社) ・本校作成プリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	・美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現することができる。	授業態度など	10%
b. 芸術的な感受や表現の工夫	・多様な表現形式の特性を生かし、創造的な表現を追求することができる。	制作作品など	20%
c. 創造的な表現の技能	・工夫して(意図に応じて)材料、用具を活かして表現することができる。	制作作品など	60%
d. 鑑賞の能力	・美術の働きや美術作品の美しさや特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうことができる。	観賞態度など	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	10	素描実習Ⅰ (幾何形体)	鉛筆を用いた素描表現の学習 ・形体の把握	○		○	
	4	15	素描実習Ⅱ (石膏)	鉛筆及び木炭を用いた素描表現の学習 ・鉛筆または木炭の特性を生かした描画法 ・フォルムとムーブメントの把握について (用紙/木炭紙・木炭紙大画用紙)	○		○	
	5~6	15	素描実習Ⅲ (静物)	鉛筆及び木炭を用いた素描表現の学習 ・鉛筆、木炭描写の特性を生かした表現について ・画面の構成、空間の把握と表現について (用紙/四つ切り画用紙)		○		○
	6~8	20	素描実習Ⅳ (石膏応用)	鉛筆及び木炭を用いた素描表現の学習 ・画面の構成力を高める ・フォルムとムーブメントの把握について ・石膏像の量感や静物の質感の表現 (用紙/木炭紙・木炭紙大画用紙)	○		○	
	9~11	12 28	素描実習Ⅴ (テーマ制作)	素描表現の学習 ・画面の構成力を高める ・応用表現の研究 (用紙/全判画用紙)	○	○	○	○
後期	12~1	20	素描実習Ⅵ (人物)	鉛筆及び木炭を用いた速写描法の学習 ・人体の比率とバランスについて ・フォルムとムーブメントの把握について (用紙/木炭紙・木炭紙大画用紙)		○	○	○
	2~3	20	素描実習Ⅶ (テーマ制作)	各自のテーマに基づいた絵画表現の学習 ・テーマ、表現方法、モチーフの選定について ・制作意図に応じた表現方法の工夫について ・表現材料の選定や技法の活用について	○	○	○	○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	絵画表現	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科・創造表現コース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・創ることのよろこびを味わい、さらに意欲的に制作する態度を養う。 ・美しさを探求し積極的に感じとる心を養う。 ・鑑賞する心と態度を養い、制作に活かす。 ・基礎的な表現技法について体得する。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・美術 表現と鑑賞(開隆堂出版株式会社) ・本校作成プリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	・美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現することができる。	授業態度など	10%
b. 芸術的な感受や表現の工夫	・多様な表現形式の特性を生かし、創造的な表現を追求することができる。	制作作品など	50%
c. 創造的な表現の技能	・工夫して(意図に応じて)材料、用具を活かして表現することができる。	制作作品など	30%
d. 鑑賞の能力	・美術の働きや美術作品の美しさや特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうことができる。	観賞態度など	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	2	概論	・さまざまな絵画作品について	○			
	4~5	12	技法演習	・アクリルガッシュや透明水彩を用いた技法演習 ・技法演習をもとにした作品の制作	○		○	
	5~7	14	色彩構成	・配色による視覚効果の工夫 ・構図のとり方や描画の方法	○		○	
	8~12	8 14	テーマ制作	・テーマをもとにした絵画制作 ・テーマの解釈、制作意図・画面構成の発想 ・構成による視覚効果(リズム・バランス) ・画面構成の工夫(造形・配色) ・構図のとり方や描画の方法 ・質感表現、空間表現について	○	○	○	○
後期	12~1	10	課題別演習 I	素描および色彩表現の学習 ・課題に応じた演習内容の設定 ・画面の構成力を高める ・応用表現の研究		○	○	○
	2~3	10	課題別演習 II	素描および色彩表現の学習 ・課題に応じた演習内容を設定 ・画面の構成力を高める ・応用表現の研究	○	○	○	○

【その他】

年間指導計画表

教科・科目	芸術科・彫刻	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科・創造表現コース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い創造活動を通して創ることのよろこびを知り、意欲的に制作する態度を養う。 鑑賞する能力を身につけ、美術文化についての理解を深める。 感性を高めて美しさを探求する態度を養い、美術を愛好する心情を育てる。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> 美術 表現と鑑賞(開隆堂出版株式会社) 本校作成プリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現することができる。	授業態度など	10%
b. 発想や構想の能力	多様な表現形式の特性を生かし、創造的な表現を追求することができる。	制作作品など	50%
c. 創造的な表現の技能	意図に応じて材料、用具を活かして表現することができる。	制作作品など	30%
d. 鑑賞の能力	美術の働きや美術作品の美しさ、特質等について自己の意見をもち、互いに批評しあうことができる。	観賞態度など	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	6	彫刻概論	彫刻全般についての理解を深める ・塑像と彫像の表現について学ぶ ・東洋彫刻と西洋彫刻の歴史について学ぶ ・粘土の持つ素材観について学ぶ	○			
	4~5	14	塑造Ⅰ(模刻)	水粘土を用いた古代彫刻模刻(頭部) ・古代彫刻が持つ構造的性と彫刻性への理解を深める ・塑像制作の技法を学ぶ ・水粘土の組成と保管、再生について学ぶ ・制作道具の使用方法(ヘラ・制作台等)について学ぶ ・心棒材料と制作(角材・しゆる縄等)について学ぶ ・塑造(粘土付け)について学ぶ	○		○	○
	5~6	14	塑造Ⅱ(頭像)	水粘土を用いた自刻像制作(頭部) ・人体(頭部)の構造について学ぶ	○	○	○	○
	7	22	木彫表現	木彫表現による作品制作(モチーフ選択) ・作品としての彫刻表現について学ぶ ・木彫表現について学ぶ ・制作道具の使用方法(のみ・彫刻刀等)について学ぶ	○	○	○	○
		8	塑造Ⅳ(油粘土でのモチーフ模刻)	油粘土を用いたモチーフ模刻 ・油粘土の性質・素材の理解を深める	○		○	
	8	8	石膏型取り実習	油粘土を用いた模刻作品の石膏型取り実習 ・石膏について学ぶ ・切り金入れについて学ぶ ・石膏による雌型の制作について学ぶ ・粘土出しについて学ぶ ・石膏貼り込みと割り出しについて学ぶ	○		○	
後期	9	10	素描(人物)	鉛筆・木炭による素描、ムービングクロッキー ・人体の構造について学ぶ ・人体構造と動作表現の関係性について学ぶ	○	○	○	
	10~11	8	塑造Ⅲ(手か足をテーマに構成)	水粘土を用いた手・足部制作 ・素材の理解を深める ・エスキースのとりかたを学ぶ ・手・足の骨格・構造を学ぶ ・立体としての空間構成について学ぶ	○	○	○	○
	11~3	50	卒業制作(自分をテーマに制作) 鑑賞	これまでの学習内容から表現形式を選択し「自分」をテーマに卒業制作を行う ・自己の考えを主体的に表現することを学ぶ ・多様な表現形式の特性を生かし、創造的な表現を追求する	○	○	○	○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	芸術科・情報メディアデザイン	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科・創造表現コース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 情報の視覚化及び伝達、交流、共有について理解を深めるとともに、専門的な技能を身につけるようにする。 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 情報メディアデザインの可能性を追求する態度を養う。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> 高校生の美術1(日本文教出版) 美術 表現と鑑賞(開隆堂出版株式会社) コンピュータ、メディア周辺機器、実技道具、補助プリントなど

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	・美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現しようとする。	授業態度など	10%
b. 芸術的な感受や表現の工夫	・多様な表現形式の特性を生かし、創造的な表現を追求することができる。	制作作品など	50%
c. 創造的な表現の技能	・工夫して(意図に応じて)材料、用具を活かして表現することができる。	制作作品など	30%
d. 鑑賞の能力	・美術の働きや美術作品の美しさや特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうことができる。	鑑賞態度など	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価			
					a	b	c	d
前期	4	10	情報メディアデザイン 概論	情報メディアデザインの基礎と、コンピュータを使った表現について学ぶ ・情報メディアデザインについて ・コンピュータ教室の利用とメディア機器の使用方法	○			
	5~6	30	情報メディアデザイン 演習Ⅰ	コンピュータとアプリケーションの基本操作について学ぶ ・グラフィック系アプリケーションの特性 ・画像データの特性と編集方法 ・周辺機器やプリンターの特性		○		○
	7~9	32	情報メディアデザイン 演習Ⅱ	情報メディアデザインの役割と表現について学ぶ ・情報メディアデザインの基礎学習 ・グラフィックデザインにおけるレイアウトの基本 ・イラストレーション・画像・書体の効果	○	○	○	○
後期	10~11	28	情報メディアデザイン 演習Ⅲ	映像表現の特性と基本操作について学ぶ ・映像表現の特色について ・映像系アプリケーションの特性と基本操作 ・画像の編集、合成、加工について	○			
	11~2	40	情報メディアデザイン 課題別作品制作	テーマに基づいたCG表現について学ぶ ・自然、自己、社会を通じた主題設定 ・制作意図に応じた表現方法の工夫 ・表現材料や技法の活用 ・制作日程の進め方とアイデアスケッチ	○	○	○	○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	芸術科・クラフトデザイン	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科(創造表現コース) 3年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クラフトデザインの基礎的な技法と多様な表現を理解し、意欲的に制作する態度を養う。 ・クラフト作品における美を探究し積極的に感じとる心を養う。 ・表現したい内容に合わせて素材や技法を選択する力を養う。 ・クラフト作品の鑑賞のポイントを学び、美的感覚を養う。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・美術 表現と鑑賞(開隆堂出版株式会社) ・本校作成プリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活の中から美や感動を見出し、創造力や発想力を高める努力をしているか。	制作に対する意欲や姿勢	20%
b. 発想や構想の能力	多様な表現様式を理解し、その特性を活かした創造的な表現を追求することができるか。	制作作品を元に発想の展開方法や応用力を評価する	40%
c. 創造的な表現の技能	意図に応じて素材や技法、用具を活かして表現することができるか。	制作作品を元に基本技法の習得や応用力を評価する	30%
d. 鑑賞の能力	用と美について理解し自己の意見を持ち、互いに評価しあうことが出来ているか。	鑑賞態度 レポートなど	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	8	制作環境の研究と整備	工芸の美意識や特質について理解し自らの制作に活用できる能力を身に付ける。 制作環境を整備し素材や器具を活用できる能力を身につける。	○		○	
	4	12	素材の研究	金属・ガラス・染色・漆芸などのクラフト素材の特性と基礎的な表現方法と制作方法について学ぶ。 身につけたい力と、表現したいことを研究する。	○		○	
	5~6	20	基礎研究制作Ⅰ	金属・木工・ガラスのいずれかを選択し基礎的な制作技法を学ぶ。	○		○	○
	6~7	20	基礎研究制作Ⅱ	七宝・染織・漆芸のいずれかを選択し基礎的な制作技法を学ぶ。	○		○	○
	7	12	個別課題制作の企画	個別課題制作に向けて制作計画を立てる。 表現したい内容と技法についての調整を行う。 試作品を制作し検討する。	○	○	○	○
後期	8~12	38	個別課題制作	主題にあった表現方法の選択をする。 制作技術を高めるための工夫をする。	○	○	○	○
	1~3	30	作品の展示と鑑賞	作品の展示方法を検討し必要な展示用具の制作を行う。 作品の効果的な見せ方の工夫をする。	○		○	○

年間指導計画表

教科・科目	芸術科・ビジュアルデザイン	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科・創造表現コース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン表現を通して創ることのよこびを知り、意欲的に制作する態度を養う。 ・日常や社会におけるデザインの役割について考え、デザイン表現についての理解を深める。 ・感性を高めて美しさを探求する態度を養い、美術やデザインを愛好する心情を育てる。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の美術1(日本文教出版) ・美術 表現と鑑賞(開隆堂出版株式会社) ・実技道具、補助プリントなど

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	・美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現することができる。	授業態度など	10%
b. 芸術的な感受や表現の工夫	・多様な表現形式の特性を生かし、創造的な表現を追求することができる。	制作作品など	50%
c. 創造的な表現の技能	・工夫して(意図に応じて)材料、用具を活かして表現することができる。	制作作品など	30%
d. 鑑賞の能力	・美術の働きや美術作品の美しさや特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうことができる。	鑑賞態度など	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	10	ビジュアルデザイン概論	デザインの果たす役割についての理解する ・デザインの社会的役割について ・視覚的な伝達効果について(平面)	○			
	5~6	30	ビジュアルデザイン演習Ⅰ(平面表現)	アクリル絵の具を用いた表現について学ぶ ・アクリル絵の具の特性 ・材質感の表現 (用紙/B2パネル)	○		○	
	6~9	32	ビジュアルデザイン演習Ⅱ(平面表現)	平面表現の基本について学ぶ ・アクリルガッシュの特性と扱い方 ・モチーフの特質と描写(色彩・形体・材質) ・構成による視覚効果(リズム・バランス) ・画面構成の工夫(造形・配色) (用紙/B1パネル)	○	○	○	○
後期	9~11	28	ビジュアルデザイン演習Ⅲ(立体表現)	立体表現にの基本について学ぶ ・造形の効果と構成の工夫 ・材料の特性とその表現効果 ・形体の性質と空間に果たす効果(リズム・バランス)		○		○
	11~2	40	テーマ制作	テーマに基づいたデザイン表現の学習 ・自然、自己、社会を通じた主題設定 ・制作意図に応じた表現方法の工夫 ・表現材料や技法の活用 ・制作日程の進め方とアイデアスケッチ	○	○	○	○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	芸術科・日本画	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科(創造表現コース)3年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・創ることのよこびを知り、意欲的に制作する態度を養う。 ・美しさを探求する態度を養う。 ・日本画の表現技法について体得する。 ・学習した表現技法を応用し実践する。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・美術 表現と鑑賞(開隆堂出版株式会社) ・本校制作プリント、実技用具など

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現しようとする。	授業態度など	10%
b. 思考・判断・表現	多様な表現形式の特質を理解し、独創的な表現に活かす。	制作作品など	50%
c. 技能	意図に応じて材料、用具を活かして表現することができる。	制作作品など	30%
d. 知識・理解	美術の働きや美術作品の美しさ、特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうことができる。	観賞態度など	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4~5	16	植物素描(鉛筆)	鉛筆による表現を学ぶ 鉛筆の種類、硬軟の使い分けと表現効果について学ぶ 構図のとり方や描法の方法について学ぶ 空間表現、質感の描き分けについて学ぶ	○	○	○	○
	5~6	16	植物着彩(水彩)	着彩による表現と描法を学ぶ 着彩道具の使い分けと表現効果について学ぶ 構図のとり方や描法の方法について学ぶ 質感表現の描き分けについて学ぶ	○	○	○	○
	6	6	画材研究	日本画の描画方法やその歴史、成り立ちなどを学ぶ 日本画の特徴や性質について学ぶ	○		○	○
	6~9	34	日本画実制作Ⅰ(静物画)	岩絵具、水干絵具による日本画の技法と表現を学ぶ 膠の使用法について学ぶ 用具の使用方法について学ぶ 下図による構図の研究する 質感表現について学ぶ	○	○	○	○
後期	9~11	18	人物素描(鉛筆)	人物をモチーフとした鉛筆描写を学ぶ 量感、動勢、空間表現について学ぶ 人体骨格の確認と構図について研究する 人体の比率やバランスの取り方について学ぶ 人体の持つ質感、量感を追求する	○	○	○	○
	11~3	50	日本画実制作Ⅱ(人物画)	授業で実践した技法・描画材を応用し、人物画の日本画制作を行う 画面内でのモチーフの入り方、構図について研究する 質感表現について研究する 岩絵具、水干絵具による日本画の技法の探求をする 創造的な自己表現について研究する	○	○	○	○

年間指導計画表

教科・科目	芸術科・油彩	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科(創造表現コース) 3年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・油彩画を中心に絵画表現を通して、創作することや自己の内面を表現することのよるこびを知るとともに、意欲的に制作する態度を養う。 ・感性を高めて美しさを探求する態度を養い、美術を愛好する心情を育てる。 ・鑑賞する能力を身につけ、美術文化についての理解を深める。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・美術 表現と鑑賞(開隆堂出版株式会社) ・本校作成プリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活の中から美や感動を見出し、創造力や発想力を高める努力をしているか。	制作への意欲 授業態度など	20%
b. 発想や構想の能力	多様な表現様式を理解し、その特性を活かした創造的な表現を追求することができる。	制作作品を元に 観察力と表現の 工夫を評価	40%
c. 創造的な表現の技能	意図に応じて材料、用具を活かして表現することができる。	制作作品を元に 技法の習得と素材 の活かし方を 評価	30%
d. 鑑賞の能力	美術の働きや美術作品の美しさについて自己の意見を持ち、互いに批評しあうなどすることができる。	鑑賞態度 レポートなど	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	8	絵画論・画材研究	絵画技法の歴史とその描画方法について学ぶ 絵画表現の技法の特徴や性質について学ぶ			○	
	4~5	16	油彩画実習Ⅰ(基礎技法)	下地の必要性、画面にもたらす効果について学ぶ 油彩による立体表現及び質感表現について研究する 油絵の具の性質、技法について学ぶ	○		○	○
	5~6	16	油彩実習Ⅱ(風景画)	主題設定と表現方法の選択について研究する 遠近感の表現について学ぶ 光の捉え方について学ぶ	○	○	○	○
	6~7	16	油彩実習Ⅲ(静物画)	空間の構成について研究する 油彩による立体表現及び質感表現について学ぶ 構図のとり方や描画の方法について研究する	○		○	○
	7	16	絵画実習Ⅳ (大作の制作)	主題設定と表現方法の選択について研究する 主題を深く掘り下げる訓練をする 自己の感情の表出について研究する	○	○	○	○
後期	8~11	38	絵画実習Ⅳ (大作の制作)	主題設定と表現方法の選択について研究する 主題を深く掘り下げる訓練をする 自己の感情の表出について研究する	○	○	○	○
	12~1	10	油彩実習Ⅵ(自由テーマ)	主題を明確にした構成について研究する 構図のとり方や描画の方法について学ぶ	○		○	○
	1~3	20	油彩実習Ⅵ(人物画)	人物画をモチーフとした画面構成について学ぶ 人体の比率やバランスの取り方について学ぶ	○		○	○

年間指導計画表

教科・科目	芸術科・陶芸	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科(創造表現コース) 3年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸の多様な分野における基礎的な技法と表現を理解し、意欲的に制作する態度を養う。 ・陶芸作品における美を探求し積極的に感じとる心を養う。 ・表現したい内容に合わせて素材(陶土)や技法を選択する力を養う。 ・陶芸作品の鑑賞のポイントを学び、美的感覚を養う。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・美術 表現と鑑賞(開隆堂出版株式会社) ・本校作成プリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活の中から美や感動を見出し、創造力や発想力を高める努力をしているか。	制作に対する意欲や姿勢	20%
b. 発想や構想の能力	多様な表現様式を理解し、その特性を活かした創造的な表現を追求することができているか。	制作作品を元に表現の工夫や発想の展開を見る	20%
c. 創造的な表現の技能	意図に応じて素材や技法、用具を活かして表現することができているか。	制作作品を元に技法の習得や応用力を見る	50%
d. 鑑賞の能力	用と美について理解し自己の意見を持ち、互いに評価しあうことが出来ているか。	鑑賞態度 レポートなど	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	6	陶芸概論 制作環境の研究と整備	陶芸制作の基本と実際について学ぶ。 使いやすさと美しさの融合を理解する。	○		○	
	4	12	陶芸実習Ⅰ(土と練)	陶芸技法と表現の基礎を学ぶ。 陶土と磁土について知る。 土練の基本を学ぶ。	○		○	
	5~6	18	陶芸実習Ⅱ(陶芸技法)	小物の制作を通して各種技法について学ぶ。 手練り・紐作り・板づくり・轆轤づくりの基本を学ぶ。	○	○	○	○
	6~7	18	陶芸実習Ⅲ(乾燥と焼成)	花器の制作を通して乾燥と素焼きについて学ぶ。 制作物の乾燥方法と不具合について学ぶ。 素焼きの窯詰の手順と注意点について学ぶ。	○		○	○
	7	16	陶芸実習Ⅳ(施釉と本焼)	施釉や絵付けの基本を理解し、適切な施釉方法を学ぶ。 釉薬の特性と施釉の技法について学ぶ。 本焼きの窯詰の手順と注意点について学ぶ。	○	○	○	○
後期	8~12	35	陶芸実習Ⅴ(応用制作)	様々な技法を応用し、テーマに沿ってイメージした器を作る。 目的に合った土を選択できる。 土や釉薬の特性を生かした表現ができる。	○	○	○	○
			陶芸実習Ⅵ(応用制作)	形の美しさを追求することが出来る。 乾燥の方法と養生の仕方について学ぶ。				
	1	12	陶芸実習Ⅶ(細密造形)	土や釉薬の特性を生かした表現ができる。 形の美しさを追求することが出来る。	○		○	○
	2~3	23	陶芸実習Ⅷ(展示と鑑賞)	展示方法の工夫ができる。 見せ方と鑑賞方法について学ぶ。	○			○

年間指導計画表

教科・科目	芸術科・音楽表現	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美しいものに触れる喜び, 美しいものを意欲的に創造する態度を養う ・専門性を身につけ, 美しさを追求する態度を養う ・我が国の伝統音楽について理解を深める ・音楽理論, 音楽史を学ぶことにより, 音楽芸術に対する理解を深め, 自らの表現活動に活かす
使用教科書・副教材等	MOUSA 2

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	音楽に向き合い, 自ら学び, 主体的に表現しようとしているか, 授業態度, 歌唱, 器楽における意欲や姿勢を評価する	授業態度・レポートなど	40%
b. 思考・判断・表現	多様な表現形式を理解し, 自らの表現に活かしているか, 単元ごとの発表により評価する	発表・実技テストなど	20%
c. 技能	声, 楽器を活かして表現する技能を身につけているか, 単元ごとの発表により評価する	発表・実技テストなど	20%
d. 知識・理解	音楽の美しさを感じ, 自分の感じたことを自分の言葉で伝えることができるか, 発表, レポートにより評価する	鑑賞態度など	20%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4~6	20	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽理論 ・聴音 ・視唱 	・音楽表現の基礎能力を身につける	○	○	○	
	6~9	16	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽理論 ・聴音 ・視唱 	・音楽表現の応用能力を身につける	○	○	○	
後期	10~12	14	<ul style="list-style-type: none"> ・和声理論の実習 ・専門実技能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・和声について学び, 楽曲の構造, 表現の幅を広げる ・専門実技能力の向上に努め, 表現の幅を広げる 	○		○	
	1~3	20	・日本音楽について	・鑑賞を中心とした内容で, 日本音楽の特徴, 良さを理解する	○			○
【その他】								